



Title	無人駅舎が転用された「駅の宿ひらふ」の公共的意義に関する考察 : 複合化・用途転用された無人駅の公共性に関する研究
Author(s)	山下, 和佳奈
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	学士(工学)
Issue Date	2011-03-24
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/52038">https://hdl.handle.net/2115/52038</a>
Type	bachelor thesis
File Information	thesis_yamashitawakana.pdf



無人駅舎が転用された「駅の宿ひらふ」の公共的意義に関する考察

—複合化・用途転用された無人駅の公共性に関する研究—

A Consideration of Public Meaning of EKI-NO-YADO HIRAFU Converted from the Uninhabited Station:

A Study of Publicness of Complex Reused or Converted Uninhabited Stations



2010 年度 卒業論文  
北海道大学建築都市コース  
山下 和佳奈

# 目次

第 1 章 背景と目的	—————	p. 1
1-1 背景		
1-2 目的		
第 2 章 既往論文	—————	p. 4
第 3 章 電話インタビュー調査	—————	p. 8
3-1 調査対象		
3-2 調査方法		
3-3 調査結果		
3-4 JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」の選定理由		
第 4 章 「駅の宿ひらふ」の現地調査概要	—————	p. 17
4-1 「駅の宿ひらふ」概要		
4-2 現地調査方法		
第 5 章 比羅夫駅利用者の行動分析	—————	p. 27
5-1 比羅夫駅利用者の行動の分類		
5-2 行動分析		
第 6 章 比羅夫駅利用者の評価分析	—————	p. 42
第 7 章 ライフストーリーインタビュー	—————	p. 47
7-1 調査対象		
7-2 対象者にとっての JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」		
第 8 章 考察とまとめ	—————	p. 51
8-1 考察		
8-2 まとめ		

参考文献一覧

資料編

# 第 1 章 背景と目的

---

1-1 背景

1-2 目的

## 1-1 背景

鉄道はいわゆる公共交通機関として、公営・民営の別にかかわらず、公共サービスとして一般的に認識されている。しかし、過疎化が進む地方では鉄道の利用者が急速に減少しているため、施設維持費や人件費の削減を理由に駅の無人化が進められている。そのような中、鉄道会社と自治体や住民との協議により、駅舎を図書館や交流センターなどと複合化したり、展示・イベントやレストランのスペースに利用していたりと、積極的に駅舎を利活用しようとする動きがある。このような駅舎は、公共交通機関としての機能は最小限となっているものの、地域施設としては一定の役割を担っており、従来の鉄道駅の駅舎とは異なる意味での公共性とその意義を生んでいると推察される。

## 1-2 目的

そこで本研究は、日本で唯一、無人駅舎を民宿へ転用している事例である「駅の宿ひらふ」に注目し、その空間的特徴を利用者の行動観察で把握、宿泊者および周辺住民へのインタビューを通じて、本来は不特定多数の利用者へのサービス提供を目的としていた公共施設としての鉄道駅が、宿泊者という特定の受益者のための民宿として施設的には利用されていることの公共的意義を考察することを目的とする。

## 第 2 章 既往論文

---

今日、複合機能が付加されている鉄道駅が多くみられ、商業施設が複合されているものが多い。臼井<sup>1)</sup>はそれらの鉄道駅における公共性について、変容および今後のあり方を研究した。臼井の研究では、「公開性」、「共通性」、「距離感」を公共空間の特性と定義し、「駅の様式性」が「距離感」を構成し、「駅の機能」が「公開性」を構成し、「駅の事業方式」が「共通性」を構成する要素であるとしている。県庁所在都市の主要駅46駅の初代から現在までの変遷をたどることで、今後、駅の形態を維持し公共建築としての恒久性が確保できるとし、また、商業機能の集積が大きく業務機能が現行駅で増加すると推測している。また、「距離感」は大きな変容がなく、「公開性」は小さくなり私的な領域が浸食していくとし、さらに「共通性」は現在十分に意識されていないが大きくなっていく可能性があるとしている。臼井氏による研究では複合化主要駅についてのみ議論がされているが、その他の駅ではどうであろうか。駅の形態を維持することが難しく、集客性もあまりない地方駅では、「公開性」、「共通性」、「距離感」の変容が異なると思われ、どのように公共性の変容し、今後公共性のあり方はどうあるべきかを検討する必要があると考える。本研究では地方駅の中でも無人駅における公共的意義を見いだすことを目的とする。

一方、ローカル駅で行われる複合化は自治体が主体となっている場合がある。寺本らは、複合化されたローカル駅が地域活性化にどのように活用され、今後どのように複合化していくかについて議論・提案している<sup>2)</sup>。抽出したローカル複合駅の複合化は鉄道会社主導であるか自治体主導であるか、また付加された機能は観光、商業、公共、多機能であるかにより5つに分類し、その中でも自治体主導の駅を取り上げアンケートを行った結果、国鉄が民営化され、鉄道会社のみで改築などを行うことは難しいため、自治体が積極的になることで地域活性化を狙う複合化が可能になることが明らかになった。その後、自治体・利用者にアンケートを行い考察している<sup>3)</sup>。まとめとして、ローカル駅の複合化は町の活性化やシンボル化に一役かっいて、住民の反応も良いが、一方で商業施設を欲する声があり、多機能化は町の活性化に有効だが維持管理などの問題が発生するため、それらの問題を解決する必要があると述べている。さらに、図書館に複合したローカル駅に着目した研究も行っている<sup>4)</sup>。図書館に複合したことによる駅の評価は高く、きれいで立派になったという評価や、町の規模によっては町のシンボルになったなどの評価、町の活気がでたなどの評価がある。また、図書館としては利便性や待ち空間として高い評価が得られた。これらから、ローカル駅が図書館と複合化することによって、地域に密着した施設になったと述べている。以上の研究により、ローカル駅の複合化に自治体が関与することの意義や評価、

#### 参考文献

- 1) 臼井幸彦,「鉄道駅における公共概念とその変容に関する研究」日本建築学会計画系論文集 第538号,173-179,2000年12月
- 2) 寺本茂弘,藤谷幸弘,前田博子,「自治体主導型ローカル複合駅の特性-ローカル複合駅による地域活性化に関する研究 その1」日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) pp.483-484,1997年9月
- 3) 寺本茂弘,藤谷幸弘,前田博子,「自治体主導型ローカル複合駅の評価-ローカル複合駅による地域活性化に関する研究 その2」日本建築学会東海支部研究報告集 第36号 pp.733-736,1998年2月
- 4) 寺本茂弘,藤谷幸弘,前田博子,「ローカル複合駅における図書館複合に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) pp.171-172,1998年9月

効果が明らかになった。しかし、ケーススタディとして図書館を取り上げているが、そのほかの資料館や商工会、町役場などの場合も同様に高い評価が得られるとは限らず、地域に密着した施設になっているにか分からない。自治体主体の複合化駅について他の施設に関しても同様にケーススタディを重ねていく必要があると考える。また、地方の駅に自治体が関与する意義は明らかになったが、鉄道会社や地域住民などの自治体以外が主導になった場合、どのような施設になっていくのかについても研究する必要があると考える。

山下ら<sup>5)</sup>は、無人駅と町の施設を合築することによって地域への影響や住民とどのように関わっているのかを明らかにしている。JR西日本において無人駅と町の施設を合築したものを対象に調査を行っているが、それらの駅に複合される施設は交流施設が最も多く、地域物産、観光、ギャラリー、事務所などがある。その中でも、アンケートにより駅および周辺地域の活性化を目的とした活動のあるものから、地域特産品販売、集会、イベントの活動を行う駅の事例調査を行い地域への影響を考察している。地域特産品販売に関しては生きがいつくりや交流拠点として評価でき、また、観光客に対して地域の魅力をアピールできている。また、集会に関しては人が常にいることによる治安の向上や駅の利便性などが評価でき、イベントに関しては地域外の交流を目的とするものが多い。まとめとして、高齢者の参加が多く高齢者の活動や能力を有効活用することが重要であること、地域住民が主導になり運営していくことで地域に根ざした活動になり行政の負担を減らす効果があること、地域住民だけでなく地域外からも参加者を呼び込もうとするという共通点が見られ、駅を活用する利点として、地方駅であっても観光客にとっての玄関口で、学生にとっての交通手段として機能しているので、駅利用者と施設利用者の新たな交流をつくと述べている。この研究では、利用者が少ない地方の無人駅であっても、自治体や地域住民の活動や複合化の仕方によって地域の活性化に役立つ可能性があることを明らかにした。無人駅においても有人駅同様に地域に密着した施設になり得ること、図書館などの施設ではなく住民主導の活動の場を複合することの意義を明らかにした。

以上から、地方の駅と自治体主体の施設との複合化による効果、活用方法、意義などに関する研究は既にくつかされているが、鉄道会社や個人などが運営する施設との複合化による研究はあまりされていない。本研究では、無人駅と個人が運営する施設との複合化による地域への影響の一端を示すことを目的とする。

北海道における過疎地域の問題としては、高橋ら<sup>6)</sup>が郵政民営化によって変化した過疎地域の郵便局の存在意義に関して研究を行っている。アンケート調査の結果、特産物を取り扱ったふるさと小包によ

#### 参考文献

5) 山下香織, 山崎寿一, 「無人駅活用によるまちづくりの展開と地域コミュニティ」平成22年度日本建築学会近畿支部研究発表報告集 pp. 313-316, 2010年6月

6) 高橋拓夢, 森傑, 「北海道の過疎地域における郵便局と地域コミュニティとの関係」日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) pp. 1099-1100, 2007年8月

る販売や工作や写真などの展示、スポーツイベントの開催など局によってはさまざまな独自のサービスを行っていることが明らかになった。フィールド調査によって郵便局としての活用だけでなくコミュニケーションの場としての活用も見られたことから、過疎地域の郵便局は地域コミュニティの形成の場としての役割も担っていることを考慮し、存在意義の検討を行うべきだと述べている。この研究によって過疎地域にとって郵便局が重要なコミュニケーション施設として存在する可能性があるということが明らかになった。本研究は、郵便局が郵政民営化されたように国鉄から民営化された JR を取り上げ、北海道の過疎地域において利用客の少ない無人駅の存在意義について考察することを目的とする。

## 第 3 章 電話インタビュー調査

---

3-1 調査対象

3-2 調査方法

3-3 調査結果

3-4 JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」の選定理由

### 3-1 調査対象

現在、JR 北海道には 465 の駅がある。本調査ではその中から以下の手順により 316 の無人駅を抽出した（図 3-1）。

#### ①緑の窓口がある駅を除外した。

緑の窓口がある駅は窓口に人がいるため除外した。緑の窓口がない駅は 355 駅であった。

#### ②直営・直営簡易駅を除外した。

直営駅とは JR の社員が配置され業務をしている駅のことで、JR の社員が改札や集札はせず、切符を売る業務のみをしている駅のことである。これらはどちらも JR の社員が駅にいるため除外した。直営・直営簡易駅を除外したところ、残った駅は 352 駅となった。

#### ③業務委託駅を除外した。

業務委託駅とは駅の業務を他の会社に委託している駅のことである。これは業務を行う人が駅にいるので除外した。残った駅は 349 駅となった。

#### ④簡易委託駅を除外した。

JR の社員以外の方が切符の販売のみの業務をしている駅のことである。これは切符を売る人が駅にいるので除外した。残った駅は 316 駅となり、これらを業務が何も行われていない最も純粋な無人駅とした。

さらに、この 316 駅の中から、駅以外の機能が備わっている駅を抽出し、調査対象とした。抽出は、JR 北海道から提示された駅舎合築・複合化事例(S62 年以降)と JR 北海道に参考資料として紹介された『北海道 鉄道駅大図鑑』（北海道新聞社発行・本久公洋著）から対象となる駅をピックアップするという方法をとった。その結果、図 2-1 に示した 40 駅を電話インタビュー調査対象駅とした。

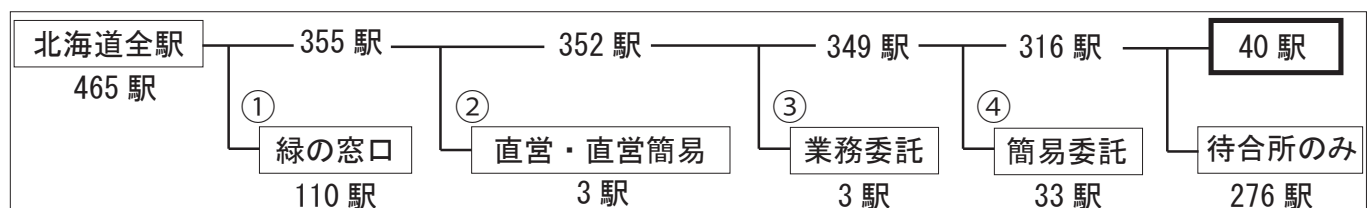


図 3-1 抽出手順

(JR 北海道による資料および本久公洋, 『北海道 鉄道駅大図鑑』北海道新聞社発行 2008<sup>7)</sup> をもとに作成)



## 3-2 調査結果

インタビュー調査の結果から、駅の形態を1) 複合、2) (一部) 用途転用、3) 駅舎なしホームのみの3種類に分類した。その際、以下のように建物の所有に着目した(図3-3)。

### 1) 複合

JR以外の団体または個人が所有する建物が隣接しているもの。

### 2) (一部) 用途転用

JRが所有する建物の一部を用途転用したもの。

### 3) 駅舎なしホームのみ

JR以外の団体または個人が所有する建物の一部を待合室として利用したもの。

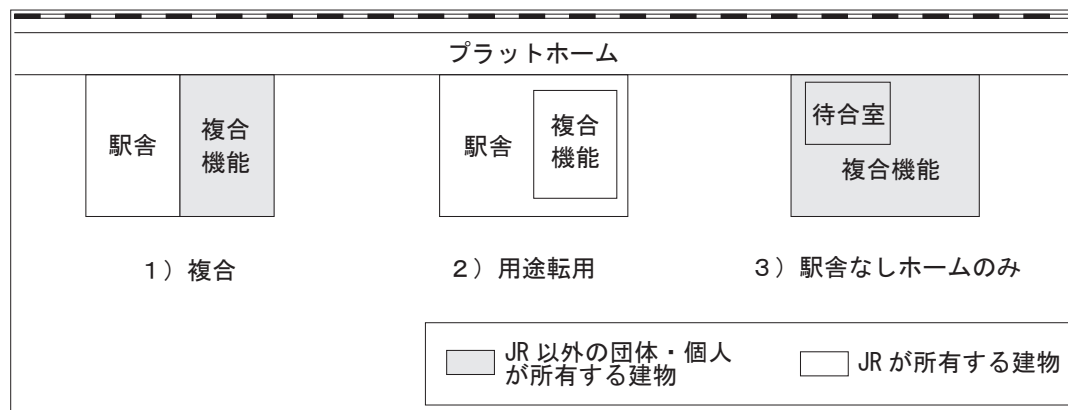


図3-3 複合化・用途転用された無人駅舎の分類

また、インタビューの結果、黒松内駅は既に付加した機能を廃止していたため対象駅から外し、対象駅は39駅とした。対象駅39駅を分類した結果表3-1のようになった。

分類の結果、それぞれ以下の特徴が得られた。

表3-1 北海道内の複合化・用途転用された無人駅舎の分類

	複合		用途転用		駅舎なしホームのみ	
公的機関による運営	白滝駅 安国駅 細岡駅 剣淵駅 浜中駅 熱郭駅 生田原駅 端野駅 石狩太美駅 大楽毛駅 渡島当別駅	展示室 展示室 展示室 展示室 展示室 ホール 図書館・文学館 商工会・物産館 町出張所 市支所 郵便局	茶内駅 幾寅駅 豊幌駅 厚床駅	展示コーナー 展示スペース 図書コーナー 交通ターミナル	新冠駅 中富良野駅 丸瀬布駅 女満別駅 佐久駅 上ノ国駅 納内駅 浜小清水駅 浦臼駅	交流センター 展示室 生涯学習館 図書館 伝承館 商工会 市役所 道の駅 歯科診療所
民間・個人による運営			比羅夫駅 川湯温泉駅 藻琴駅 豊富駅 沼ノ沢駅 当麻駅 塘路駅 茶志内駅 十弗駅 鹿部駅	民宿 喫茶店 喫茶店 喫茶店 レストラン 売店 喫茶店 交流スペース 図書コーナー 図書コーナー	日高三石駅 月ヶ岡駅 由仁駅 目名駅 日高幌別駅	食堂 直売所 交流センター 交流センター レストラン <sup>(※)</sup>
所有	JR+自治体		JR		自治体 <small>(※日高幌別駅のみ個人(株式会社)が所有)</small>	

(ヒアリングにより作成)

## 1) 複合

複合に分類された全ての駅で共通して、公的機関による運営の機能と複合しており、付加した機能の建物の所有は自治体である。

複合化のいきさつは JR のみでは改築するのが経済的に困難で、自治体が積極的に出資し JR と共同で改築したことが多い。

地域住民からの依頼などにより改築している場合、地域の人々の利用が中心となるホール、図書館・文学館、町出張所、市支所、郵便局などの機能が複合されている。他にも地域の物産などを展示して地域の PR の場に使う展示室、商工会・物産館と複合している。

## 2) (一部) 用途転用

JR が所有している建物に家賃を払い、個人がレストランなど営利目的の施設を運営している。

用途転用するいきさつは、家賃収入を目的とした JR がテナントとして貸し出すことによる。

民間個人による運営の機能が主であるが、公的機関による運営のものもある。公的機関による運営のものとしては図書コーナーを開設しているものがある。

(一部) 用途転用される具体的な機能としては、レストラン、喫茶店、売店がある。

駅舎ではなくテナントとして認識され、複合化の理由は地域の荒廃を危惧してなどとしているが、地域にどのような効果があるのかが明確ではないものが多い。

### 3) 駅舎なしホームのみ

自治体が所有する建物の一部に待合スペースがもうけられ、JRはホームのみ所有している。日高幌別駅のみ個人の株式会社が建物を所有している。

いきさつはJRには駅舎を立て直すことが経済的に困難であったが、駅舎がない駅にはしたくないなどの理由から自治体が出資し駅舎を新しく改築している。

公的機関による運営の機能が主であるが、民間個人による運営のものもある。民間個人による運営のものとしてはボランティアがサークルなどを通して運営しているものや、直売所としての貸し出しなど地域に根付いたものが多い。

地域住民からの依頼などにより改築しているため、地域の人々の利用が中心となるものが多く、複合化される具体的な機能としては、交流センター、展示室、生涯学習館、伝承館、道の駅、歯科診療所がある。

### 3-4 JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」の選定理由

これまで挙げてきた分類の特徴などから、1) 複合、3) 駅舎なしホームのみは、自治体が地域住民の声などから出資し改築しているため、サークル活動などのコミュニティの場であったり、郵便局や図書館など利便性の向上であったり、地域や物産などのPRの場としてなど、地域住民や駅利用者に直接還元される機能が複合化している。

一方で、2) (一部) 用途転用の場合、駅舎ではなくテナントとして認識され、利用する人も限られるため、複合化の理由は地域の荒廃を危惧してなどとしているが、地域にどのような効果があるのかが明確ではないものが多い。

JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」は、JRに家賃を払い、駅舎の旧駅員室・宿直室を個人が借り受け、内装を改装して民宿として運営しているため、2) (一部) 用途転用に分類される。個人経営の民宿が複合している無人駅は日本で唯一「駅の宿ひらふ」のみである。「駅の宿ひらふ」も用途転用の理由を地域の荒廃の危惧としているが、「民宿」という機能は他の地域の人にむけた機能であり、地域住民や駅利用者にとって利用する目的・理由・機会があまりなく、2) (一部) 用途転用の中でも喫茶店やレストランに比べ地域に還元される機会が少ない。

以上のことからJR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」に着目し、駅に民宿があることで具体的に起こる地域への影響・意義、駅自体のポテンシャルを考察することを目的とする。

## 第 4 章 「駅の宿ひらふ」の現地調査概要

---

4-1 「駅の宿ひらふ」概要

4-2 現地調査方法

## 4-1 「駅の宿ひらふ」概要

### 1) 建築的基礎情報

所在地 北海道倶知安町比羅夫 JR 比羅夫駅構内

建築年 昭和 37 年

延床面積 58.8 m<sup>2</sup> (2 階建)

敷地面積 153 m<sup>2</sup>

家賃 土地 ①事務所及び駐車場 57 m<sup>2</sup>

建物延べ床面積 16.88 m<sup>2</sup>

年額 16,700 円

平成 10 年度分 8,400 円

敷金 12,000 円

(H10/10/1 ~ H12/3/31)

② 96 m<sup>2</sup> (風呂・便所・ログハウス)

年額 28,900 円

敷金 16,000 円

(H15/10/1 ~ H18/3/31)

担当 資産管理センター貸付・業託グループ

建物 ③比羅夫駅 (使用面積) 58.8 m<sup>2</sup>

月額 29,400 円

敷金 59,000 円

(H14/9/1 ~ H15/3/31)

担当 開発事業本部広告・構内営業グループ

### 2) 宿泊施設としての基礎情報 (写真 4-1、2、3、4)

駅舎の旧駅員室・宿直室を民宿として用途転用している。個人経営の民宿が複合している無人駅は日本で唯一「駅の宿ひらふ」のみである。宿泊できる部屋としては、駅舎 2 階の和室 (定員 3 名) と洋室 (定員 4 名) が各一部屋ずつとログコテージが 2 棟あり、最大 16 名宿泊できる。(図 4-1、図 4-2) 宿泊費は大人一泊 2 食付で 5,300 円～である。夕食は 4～10 月の期間であればプラットホームでバーベキューを楽しむことができる。

### 3) 用途転用までの経緯

比羅夫駅は昭和 57 年に無人化した。無人化された後、駅舎が取り壊されることになったが、それを知った前オーナーが地域が寂れていく事を危惧し、駅舎自体が立派なので何かに使えないかと考えた。前オーナーはもともとニセコのスキー場でロッジを経営していたため、旅好きの人のためにユースホテルのような宿を作りたいと JR 側に直接交渉した。国鉄時代からの赤字が膨大であったため、家賃収入があるなら実験的にやってみようということで許可が降り、昭和 62 年 8 月に「駅の宿ひらふ」としてオープンした。

### 4) 生計

8 月の旅行客を中心とし、年間 700 ～ 800 人訪れ、売り上げは毎年 500 万円程度である。宿として最低限必要である食材・シーツなどの仕入れで 100 万円程度、その他水道、ガス、インターネット、ガソリンに掛かる金額を売り上げから差し引いた利益は、毎年 350 万～ 400 万円程度となる。

### 5) 周辺地域の状況

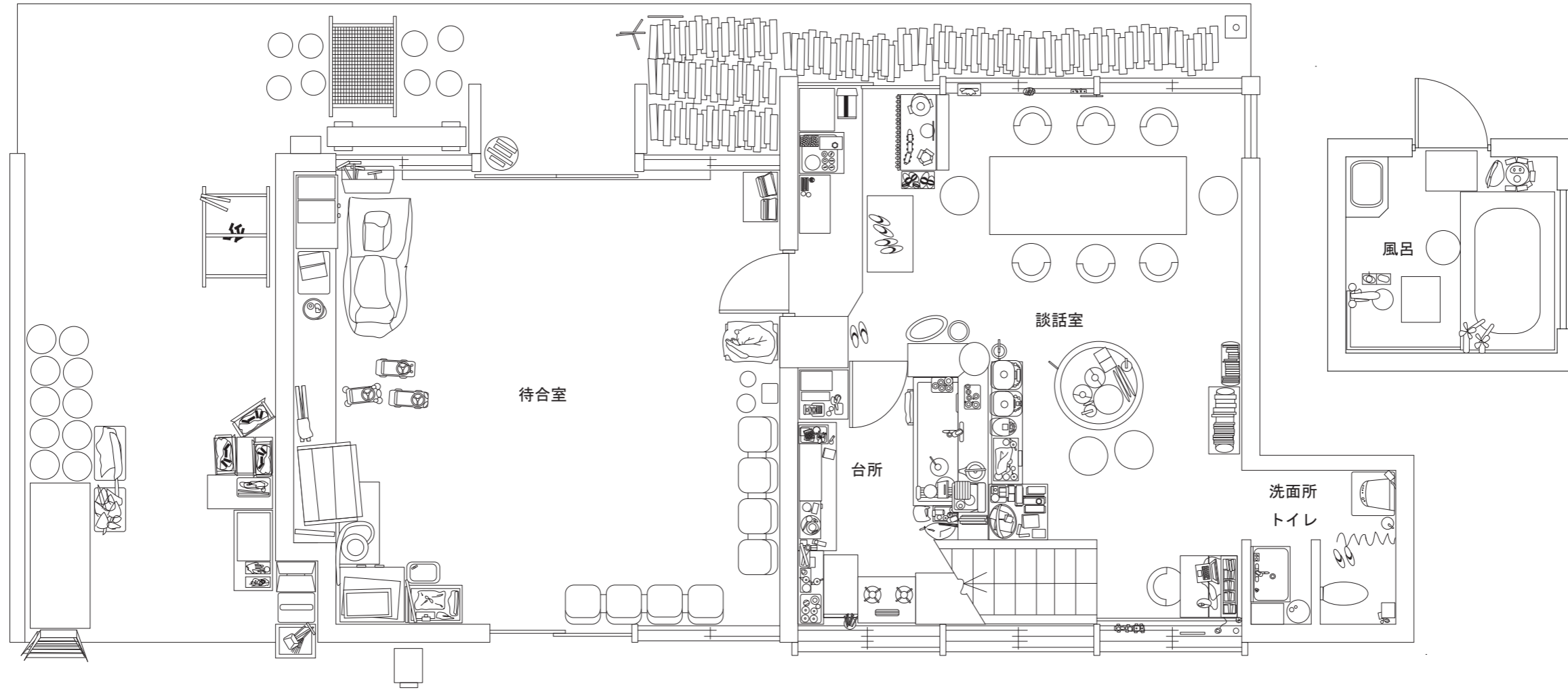
JR 比羅夫駅のある倶知安町比羅夫は面積約 6,915,000 m<sup>2</sup>、人口 204 人（男 103, 女 101; 2010 年 10 月現在）の地区である。図 4-3 のように、羊蹄山、ニセコアンヌプリなど山に囲まれ、地形は盆地になっている。スキーも盛んで、駅からはニセコアンヌプリ国際スキー場やニセコ・グラン・ヒラフスキー場などが見える。「駅の宿ひらふ」では、夏に羊蹄山登山口、冬にスキー場への送迎も行っている（別途料金）。

図 4-3 で図示した駅周辺の 5 軒以外の住民は高低差があり、傾斜が急で比羅夫駅周辺から利用するには便利とは言い難いが、尻別川より西側に展開する樺山の住民の利用が見られる。比羅夫駅以外の公共交通機関としては国道 5 号線、樺山にバス停がある。

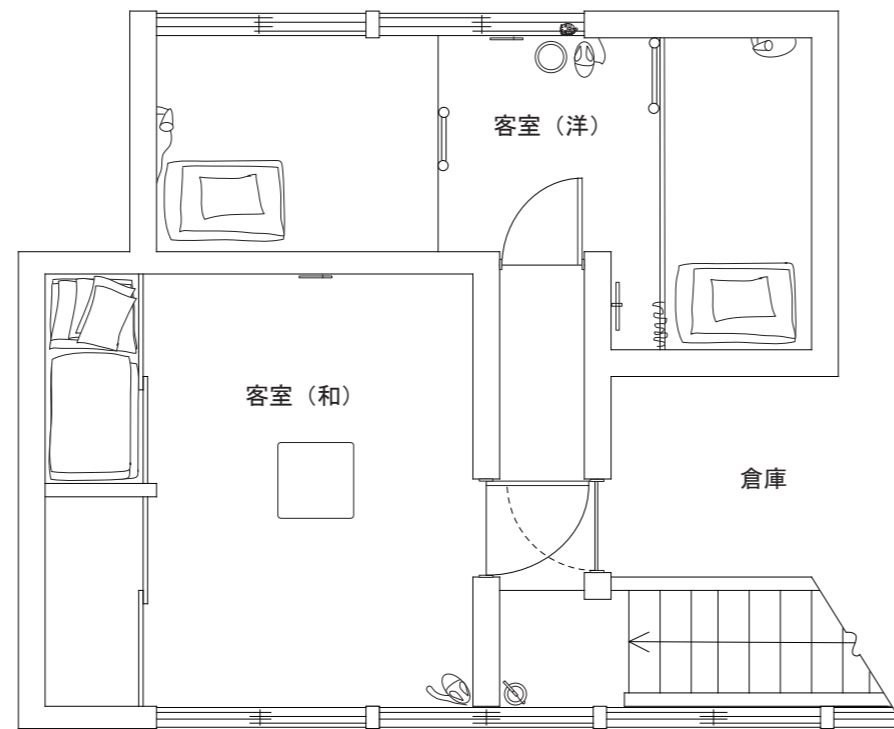
### 6) JR 比羅夫駅の利用状況

JR 比羅夫駅からは旭川・小樽方面に一日 9 本（6:50、7:44、9:18、10:47、13:43、16:15、17:49、19:11、21:23）、函館・長万部方面に一日 7 本（6:35、8:00、9:36、13:59、16:46、18:13、21:00）ずつ列車が発着している。一日の乗車人数は平日は 5 人前後、土日祝日は 10 人前後と少なく、現在 JR 比羅夫駅を通勤利用しているのは樺山在住の夫婦一組のみである。

ホーム



1階平面図



2階平面図

図 4-1 「駅の宿ひらふ」平面図 (実測により筆者作成)



縮尺 1 : 60

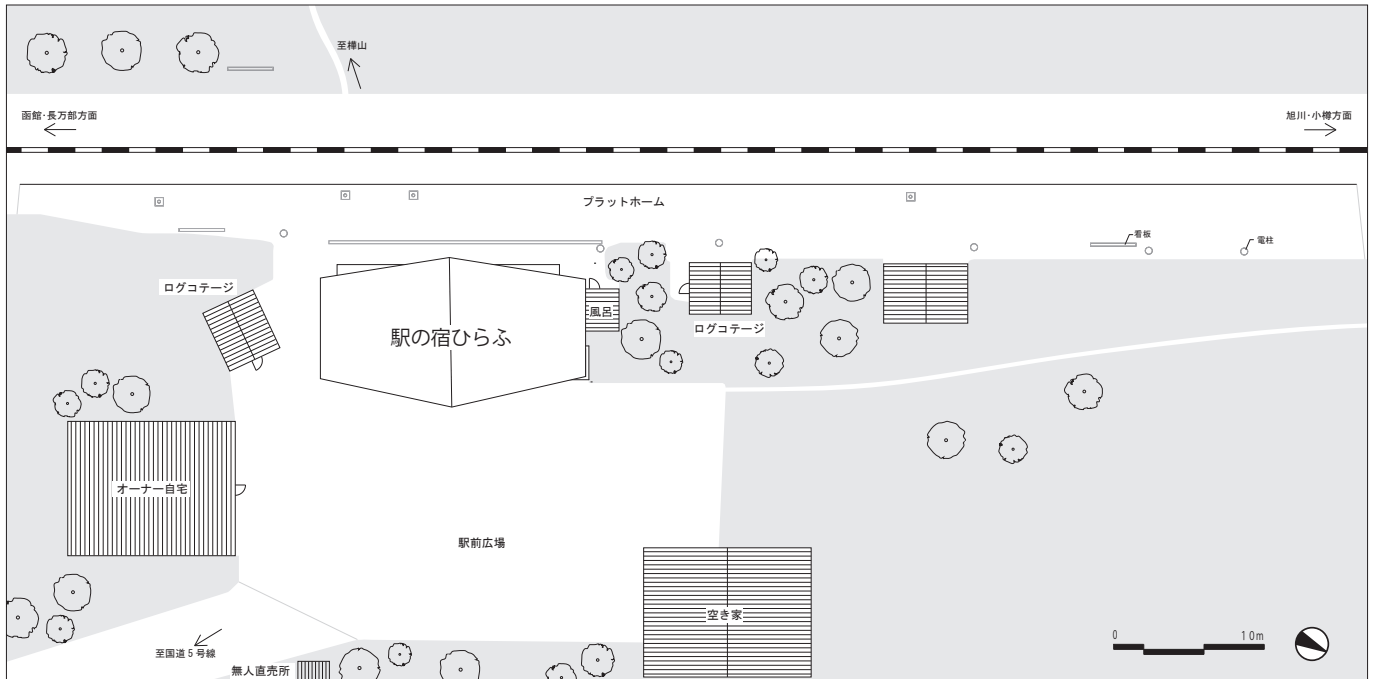


図 4-2 「駅の宿ひらふ」配置図 (実測により作成)

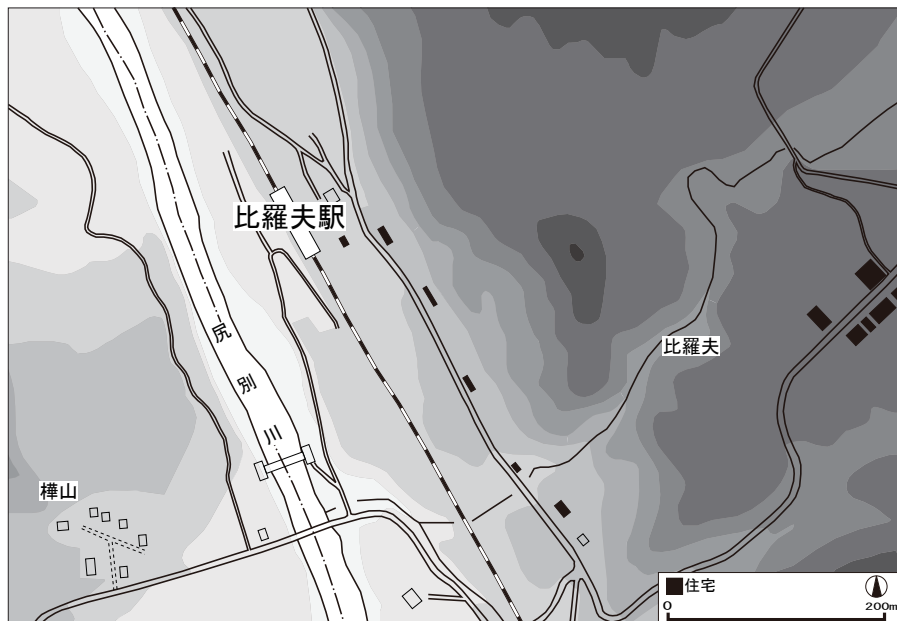


図 4-3 比羅夫駅周辺地図  
 (『ゼンリン住宅地図 虻田郡倶知安町 200805』<sup>8)</sup> を元に作成)



写真 4-1 列車と「駅の宿ひらふ」(筆者撮影)



写真 4-2 「駅の宿ひらふ」の外観(筆者撮影)



写真 4-3 待合室と「駅の宿ひらふ」玄関（筆者撮影）



写真 4-4 「駅の宿ひらふ」内部の様子（筆者撮影）

## 4-2 現地調査方法と結果

利用人数の少ない比羅夫駅において可能な限り駅利用者の属性・目的・行動を理解把握するために、2010年9月20日（月）～27日（月）まで「駅の宿ひらふ」に宿泊・滞在し、近隣住民・「駅の宿ひらふ」の宿泊者（以下、宿泊者）・その他駅訪問者（以下、駅訪問者）について、以下の調査を行った。調査エリアはホーム・待合室・駅前広場を含めた範囲とする。調査対象者は表4-1のとおりである。

### 1) 行動観察調査

比羅夫駅における利用実態を把握するために、2010年9月22日（水）、25日（土）、26日（日）の3日間、列車の運行する6時～21時30分の時間帯に張り込み形式で行動観察調査を行った。その結果、近隣住民24、宿泊者134、駅訪問者235の延べ393の行動を観察できた。

### 2) インタビュー調査

全ての駅利用者の中から協力が得られた人を対象にインタビュー調査を行った。近隣住民・駅訪問者については2010年9月21日（火）、23日（木）、24日（金）の3日間行い、近隣住民4人中3人、駅訪問者23人中5人の協力が得られた。宿泊者については20日（月）～26日（日）までの7日間行い、20人中18人の協力が得られた。

### 3) ライフストーリーインタビュー

比羅夫駅から倶知安駅まで通勤で列車を利用する唯一の夫婦の妻に対して、2010年10月22日（金）にライフストーリーインタビューを行った。約1時間10分のインタビュー協力が得られた。

表 4-1 調査対象一覧

	調査内容			属性				
	行動調査	インタビュー	ライフストーリー	性別	年齢	職業	居住地	交通手段
宿泊客	1		○	男性	45	グラフィックデザイナー	小樽	JR
	2		○	男性	44	会社員	広島	JR
	3		○	女性		主婦	奈良	JR
	4	○	○	男性	48	会社員（日本郵政グループ）	東京	自家用車
	5	○	○	男性	23	会社員（郵貯銀行）	埼玉	JR
	6	○	○	男性	35	会社員	埼玉	自家用車
	7	○	○	女性	23	フリーター	東京	自家用車
	8		○	男性	23	会社員	埼玉	JR
	9		○	男性	23	会社員	埼玉	JR
	10	○	○	男性	43	会社員	横浜	JR
	11	○	○	男性	50	会社員（JR西日本 駅員）	京都	自家用車
	12	○	○	男性	不明	不明	不明	JR
	13		○	男性	不明	不明	不明	JR
	14	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	15	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	16	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	17	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	18	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	19	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
	20	○	○	男性		会社員（京王電鉄 駅員）		JR
近隣住民	1	○	○	男性	90	無職	比羅夫	
	2	○		男性	66	高齢者事業団	樺山	
	3		○	女性	80	農家	比羅夫	
	4		○	女性	76	無職	比羅夫	
	5			女性	64	高齢者事業団	樺山	
駅訪問者	1	○		男性	—	—	—	バイク
	2	○		女性	—	—	—	バイク
	3	○		男性	—	—	—	自家用車
	4	○		男性	—	—	—	自家用車
	5	○		男性	72	無職	室蘭	自家用車
	6	○		女性	—	—	—	徒歩
	7	○		男性	—	—	—	自家用車
	8	○		女性	—	—	—	自家用車
	9	○		男性	—	—	—	自転車
	10	○		男性	—	—	—	JR
	11	○		男性	—	—	—	JR
	12	○		男性	—	—	—	自家用車
	13	○		男性	—	—	—	自家用車
	14	○		男性	—	—	—	自家用車
	15	○		女性	—	—	—	自家用車
	16	○		男性	—	—	—	自家用車
	17	○		男性	—	—	—	自家用車
	18	○		男性	—	—	—	自家用車
	19	○		女性	—	—	—	自家用車
	20	○		男性	—	無職	銀山	自家用車
21	○		女性	—	主婦	銀山	自家用車	
駅訪問者	22	○		男性	—	—	—	自家用車
	23	○		男性	—	—	—	自家用車
	24	○		女性	—	—	—	自家用車
	25	○		女性	—	—	—	自家用車
	26	○		男性	—	—	—	自家用車
	27	○		男性	—	—	—	自家用車
	28	○		女性	—	—	—	自家用車
	29	○		男性	—	—	—	JR
	30	○		男性	—	—	—	自家用車

	調査内容			属性				交通手段	
	行動調査	インタビュー	ライフストーリー	性別	年齢	職業	居住地		
駅訪問者	31	○		女性	—	—	—	自家用車	
	32	○		男性	—	—	—	自家用車	
	33	○		男性	—	—	—	自家用車	
	34	○		男性	—	—	—	自家用車	
	35	○		男性	—	—	—	自家用車	
	36	○		男性	—	—	—	JR	
	37	○		男性	—	—	—	自家用車	
	38	○		女性	—	—	—	自家用車	
	39	○		男性	—	—	—	徒歩	
	40	○		男性	—	—	—	自家用車	
	41	○		男性	—	—	—	ミニバス	
	42	○		男性	—	—	—	ミニバス	
	43	○		女性	—	—	—	ミニバス	
	44	○		男性	—	—	—	自家用車	
	45	○		男性	—	—	—	自家用車	
	46	○		女性	—	—	—	自家用車	
	47	○		女性	—	—	—	自家用車	
	48	○		男性	—	—	—	自家用車	
	49	○		男性	—	—	—	自家用車	
	50	○		女性	—	—	—	ミニバス	
	51	○		女性	—	—	—	ミニバス	
	52	○		女性	—	—	—	ミニバス	
	53	○		女性	—	—	—	ミニバス	
	54	○		男性	—	—	—	徒歩	
	55		○		女性	56	会社員	東京	JR
	56		○		女性		主婦	静岡	自家用車
	57		○		女性	50	主婦	札幌	自家用車
	58		○		男性	60	会社員	倶知安	自家用車
	59		○		女性	59	主婦	札幌	自家用車

## 第 5 章 比羅夫駅利用者の行動分析

---

5-1 比羅夫駅利用者の行動の分類

5-2 行動分析

## 5-1 比羅夫駅利用者の行動の分類

観察できた全ての行動を近隣住民・宿泊者・駅訪問者の属性毎に整理した。各々の行動を「交通サービスの利用」「その他の施設サービスの利用」「宿泊サービスの利用」「日常生活資源の利用」「観光資源の利用」の5つに分類した。

## 1) 交通サービスの利用

交通サービスを利用するための行動。駅で列車の乗り降りなどに伴い見られる行動。例えば、列車の乗り降り、列車を待つ、列車に乗って訪れる知人の迎えなど。近隣住民・宿泊者・駅訪問者すべての属性による利用が観察できた。



写真 5-1 駅訪問者が駅まで知人を迎えに来る (筆者撮影)



写真 5-2 近隣住民がホームで列車を待つ (筆者撮影)

## 2) その他の施設サービスの利用

その他の施設サービスを利用するための行動。駅や民宿によるサービスではなく、駅や民宿に付属する施設・設備による行動。例えば、駅前広場での自動車の駐車やホームにある喫煙スペースの利用など。宿泊者・駅訪問者による利用は観察できたが、近隣住民による利用は観察できなかった。



写真 5-3 駅訪問者が駅前広場に駐車する (筆者撮影)



写真 5-4 宿泊者がホームで喫煙する (筆者撮影)

### 3) 宿泊サービスの利用

民宿「駅の宿ひらふ」による宿泊サービスを利用するための行動。一般に宿泊客が民宿で行うと思われる行動。例えば、ホームでのバーベキューや、民宿と風呂の行き来、民宿とログコテージの行き来などの移動、待合室でお酒を飲みながらの雑談など。宿泊者による利用は観察できたが、近隣住民・駅利用者による利用は観察できなかった。



写真 5-5 宿泊者がホームででバーベキューをする（筆者撮影）



写真 5-6 宿泊者が風呂からホームを通過して民宿に移動する（筆者撮影）

#### 4) 日常生活資源の利用

日常生活資源を利用するための行動。近隣住民が日常的に行う行動であるため、近隣住民による利用のみ観察できた。例えば、ホームで散歩する、ホーム沿いに咲く花を見つめる、景色を眺める、駅に住みつく猫と戯れる、ポストに葉書を投函するなど。



写真 5-7 近隣住民が佇み景色を眺める (筆者撮影)



写真 5-8 近隣住民がホーム沿いに咲く花を見ながら歩く (筆者撮影)

## 5) 観光資源の利用

観光資源を利用するための行動。宿泊者や駅訪問者が行う観光的な行動。例えば、列車・SL・駅舎の撮影、駅舎の紹介・案内をする、駅舎を眺める、駅に住みつく猫に話しかけるなど。



写真 5-9 駅訪問者が SL の撮影をする場所を確保する (筆者撮影)



写真 5-10 駅訪問者が比羅夫駅に住みつく猫と戯れる (筆者撮影)

## 5-2 行動分析

以上のように分類を行った全ての行動を調査エリアの平面図上にプロットし、各属性毎の利用実態から行動の特徴を分析する。

### 1) 属性毎の行動分析

#### i) 近隣住民

駅前広場では、近隣住民が駅訪問者と会話をする行動が観察できた。ホームでは、地面に咲く草花を眺める、ホーム沿いを散歩するなどの行動が観察できたことから、近隣住民はホーム全体を日常生活資源として捉え、余暇的活動の場として利用していることがわかる。

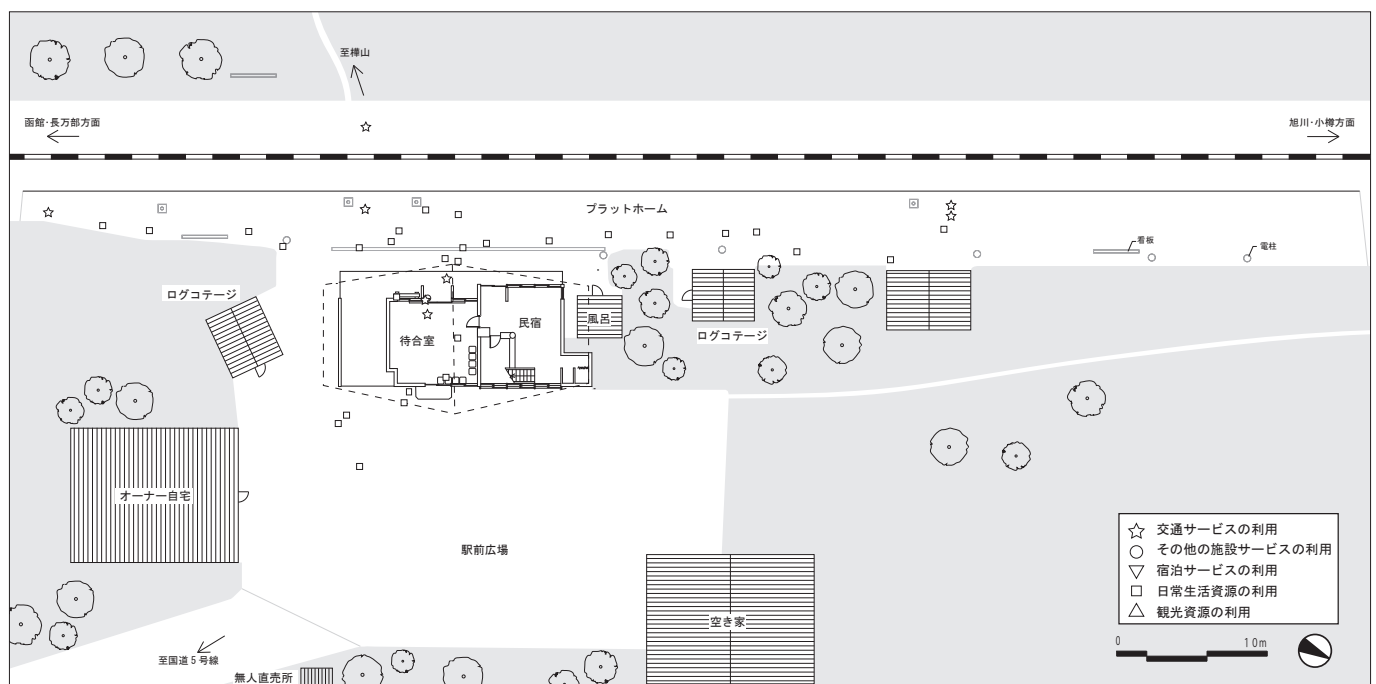


図 5-1 近隣住民の利用実態 (行動観察調査より筆者作成)

## ii) 宿泊者

待合室では、宿泊者がオーナーや他の宿泊者・駅訪問者と会話をする行動やバーベキューの後に宿泊者同士でお酒を飲みながら雑談する行動が観察できたことから、待合室が隣接する民宿の談話室の延長として利用されているといえる。

ホームでは、宿泊者がバーベキューをする、ホームを通過し丸太風呂に向かって移動する行動やログコテージから駅舎までホームを通過して移動する行動が観察できた。このことから、前者はホームが駅舎内に併設された宿泊施設の食堂として、後者は廊下として利用されていることがわかる。

以上より、本来宿泊施設内で行われるサービスの利用が、待合室やホームと言った公共空間を介し、駅全体に展開されていることがわかる。

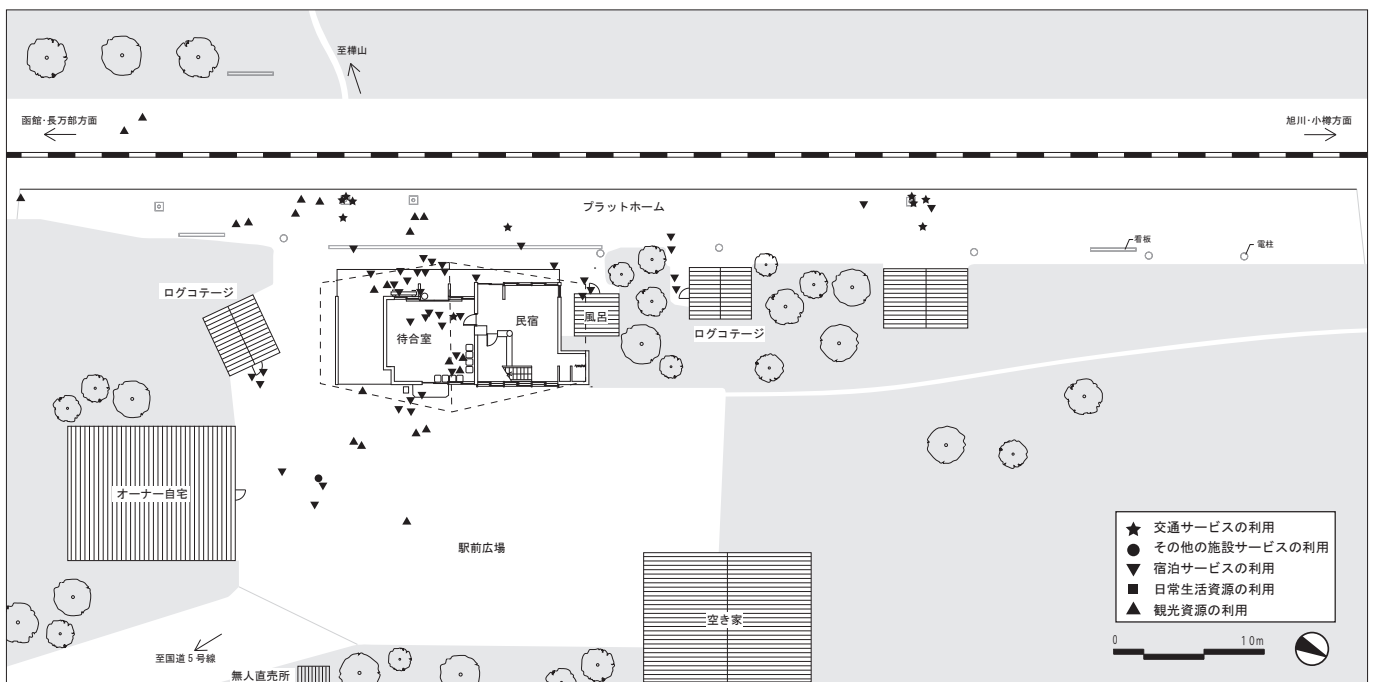


図 5-2 宿泊者の利用実態 (行動観察調査より筆者作成)

### iii) 駅訪問者

駅前広場では、駅訪問者が近隣住民に道を尋ねたことをきっかけに世間話に花を咲かせる行動が観察できた。調査エリア全体では、駅舎・列車の撮影、駅舎を眺める、紹介・案内するなどの行動、駅に住みつく猫と戯れる行動が観察できたことから、比羅夫駅全体が観光資源として捉えられ利用されているといえる。



図 5-3 駅利用者の利用実態 (行動観察調査より筆者作成)

## 2) 異なる属性間の交流

次に、駅利用者同士の交流に着目すると、属性内だけでなく異なる属性間の交流が観察できた。図5-4から異なる属性間の交流のきっかけとなる空間的特徴を分析する。

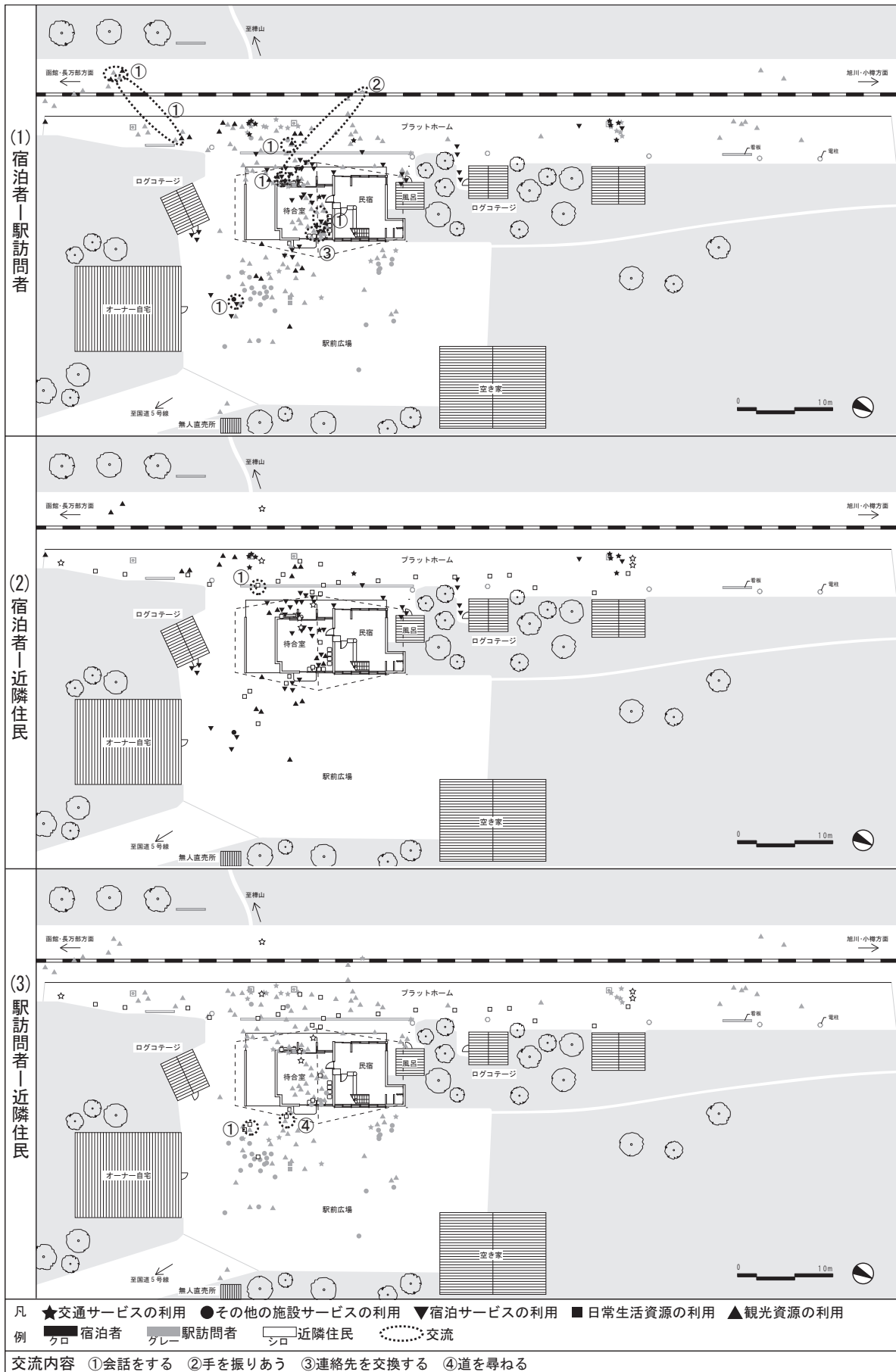


図 5-4 異なる属性間の交流 (行動観察調査より筆者作成)

### i) 宿泊者－駅訪問者

宿泊者がSLを見学を訪れた駅訪問者と意気投合し、待合室で連絡先を交換する場面が見られた（図5-4(1)-③、写真5-11）。これは、民宿の出入り口が駅待合室の中にのみあり、待合室を経由しなければホームに向かうことができないという空間的な特徴から実現したものと考えられる。

また、ホームでバーベキューをしていた宿泊者が列車に乗っている乗客と手を振りあう場面が観察された（図5-4(1)-②）。これは、「駅の宿ひらふ」の宿泊サービスがホームでバーベキューを行う給仕方法であり、列車との距離が近いことにより実現している。

これらから、宿泊サービスの利用が駅全体に展開することにより、ホームと待合室が宿泊客－駅訪問者の接点となり、交流が生まれるきっかけを与えているといえる。



写真 5-11 宿泊者と駅訪問者が連絡先を交換する（筆者撮影）

## ii) 宿泊者－近隣住民

朝 10 : 00 頃、近隣住民が宿泊客に話しかけようとする姿が観察できたが、実際に会話などの交流は観察できず、それ以外に交流は見られなかった(図 5-4(2)-①)。宿泊客は、駅のホーム沿いにあるログコテージか民宿を利用する。ログコテージから民宿まではホームと待合室を通過しなければならない。しかし、近隣住民が比羅夫駅に散歩をしに訪れるのは午前中もしくは昼間に集中しているのに対して、宿泊者が「駅の宿ひらふ」に滞在するのは夕方から翌朝 10 : 00 までである。しかしながら、朝 10 : 00 以前に散歩をしに来た近隣住民と、ログコテージに宿泊した宿泊者には接点生まれる。以上より、時間的制約はあるもののホームは宿泊客－近隣住民に接点を与えているといえる。

### iii) 近隣住民－駅訪問者

車で訪れた駅訪問者が駅前広場で近隣住民に道を尋ね、それをきっかけに世間話に花を咲かせるという場面が観察された(図5-4(3)-①)。これは、比羅夫駅の周辺には駐車できる場所が駅前広場しかなく、駅前広場が駐車スペースとして活用されていることと、近隣住民がホームに散歩に訪れる際に駅前広場を経由することから実現したものと考えられる。このように、駅前広場は駅訪問者－近隣住民に接点を与えていると言える。

この他にもホームでの散歩や、ホームから比羅夫駅の駅舎や列車などを撮影・観光することは、ホームと駅前広場までの間に仕切りなどが一切なく誰でも自由に行き来できることにより可能になっている。したがって、ホームも駅訪問者－近隣住民に接点を与えているといえる。



写真 5-12 近隣住民と駅訪問者が世間話に花を咲かせる (筆者撮影)

## 第 6 章 比羅夫駅利用者の評価分析

---

駅利用者の比羅夫駅に対する認識を明らかにするために、インタビュー調査での、近隣住民・宿泊者・駅訪問者、各々の属性からみた比羅夫駅への評価に関する発言について KJ 法を応用し分類した (表 6-1)。それにより、ここでは 7 つの認識を抽出できた。各々についての特徴は以下のとおりである。

表 6-1 駅利用者の属性毎の比羅夫駅に対する認識

	近隣住民	宿泊者	駅訪問者
交流性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の家の前まで宿泊客があるいてきて、挨拶してくれる。</li> <li>道外から来た宿泊客にカメラ屋さんの場所をたずねられた事をきっかけに世間話に花が咲いて、仲良くなり、しばらく手紙のやりとりをしていたことがある。</li> <li>比羅夫駅の周辺でする事が何もないため、自分の家の前まで色々な出身地、人種の人が見え、話したり、挨拶したりする事が楽しい、嬉しい。</li> <li>道外などから駅に来た人が無人直売所に立ち寄って野菜を購入し、直売所について話しかけられる事がある。</li> <li>野菜を買いに来た人に「やっとな(野菜を)作っている人に会えた」と言われた事がある。</li> <li>直売所で得た収入は小遣い稼ぎ程度だが、そこに入っている 100 円がとてもうれしい。</li> <li>バーベキューをしている姿を見るが、バーベキューに参加して、若い人と話す機会が欲しい。バーベキューがおいしそう、加わりたい。</li> <li>人が常にいるのでうれしい。</li> <li>入れ替わり立ち替わりで色々な人種の色々な出身地の人々が来るようになったので、駅に散歩に行く与会えるのがうれしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「想いでノート」を見ると知らない人同士が集まっているのに、その日だけで仲良くなって朝まで話しましたなどと書いているのを見ると、自分もいつか誰かと朝まで話したりしたいと思う。</li> <li>こういうところでいろんな人と出会って共通点が見つかったりするの面白い。</li> <li>初めて会った人同士でお酒を飲んで、いっぱい喋るのがとても楽しい。</li> <li>こういうところで(旅先で)会って共通点が見つかったりするの面白い。</li> <li>ここでしかない出会いがある。一期一会が素敵。</li> <li>電車から手を振りたりする光景が面白い。</li> <li>たとえ自分の娘でも誰かに気を遣う旅は嫌だから、一人がいい。</li> <li>こういう俗世から離れたようなところは、誰かとの交流よりも、むしろ一人でぼーっとしているのが贅沢な過ごし方で好き。</li> </ul>	
非日常性		<ul style="list-style-type: none"> <li>音もなく静かだし、日常を忘れられる。</li> <li>俗世から離れた感じが好きで、仕事の電話が掛かってきたら嫌なので汽車から降りるときは必ず携帯電話の電源を切ると決めている。</li> <li>仕事に詰まった時に来て、窓の外をぼーっと見ると、良いアイデアがぽっと生まれたりする。セカンドハウスみたい。</li> <li>普段の疲れが取れるし、日常のことを忘れられる。</li> <li>セカンドハウスみたいところが魅力だと思う。</li> <li>時間が止まっているみたい。</li> <li>時間がゆっくり流れている。</li> <li>ひらふは時間を忘れられるのが良い事、何も無い。音もない。</li> </ul>	
希少性		<ul style="list-style-type: none"> <li>女子高校生に「あー、あの一人一人でご飯食べてる」と指をさされた事がある。</li> <li>自分もまだ泊まった事がない時はバーベキューとかしてるのを汽車から見て、よくあんなことでやるなあと思ってた。</li> <li>汽車から見られてるの恥ずかしい。</li> <li>前に来た時は人数が多かったので生焼けで大変だった。</li> <li>ご飯を食べながら鉄道が見れて面白い。鉄道好きにはたまらない。</li> <li>一人で泊まる時、ホームで一人でバーベキューをするのが恥ずかしかったが、今は一人で食べているのを電車から見られる事をむしろ気持ちよくさえ感じるようになった。</li> <li>暖炉や机など宿全体の雰囲気かノスタルジックでいい。</li> <li>本当に汽車のすぐ横でバーベキューをしているからびっくりした。</li> <li>前に来た時、ホームでバーベキューをしているところを、通学中の高校生に見られて恥ずかしかった。</li> <li>ホームでお酒が飲めるのが最高。</li> <li>昔の駅舎をそのまま使っているのが魅力。</li> <li>ほとんどの無人駅は今も駅舎自体が無いので、駅舎をそのまま使った民宿にはできない。</li> <li>汽車が近くで見れるのが良い。</li> <li>鉄道オタクのための場所のよう鉄道オタクとしてはいるだけで面白い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅があると聞き、どうせ無人駅だろうと思って暇つぶしに来てみたら、宿になっていて驚いた。</li> <li>妻に言われて来てみたが、本当に駅に宿があっぴょりした。</li> <li>駅に宿があるのはおもしろいと思う。</li> <li>テレビで見て来てみたかった。</li> <li>昔懐かしい空間が味わえるのが贅沢。</li> </ul>
景観性		<ul style="list-style-type: none"> <li>外を見ると緑ばかりで、普段見ない風景だからいい。</li> <li>何も無い風景が都会にはない。</li> <li>星が綺麗、空気がきれい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔懐かしい空間が味わえるのが贅沢。</li> <li>都会ではまず味わえない田舎らしさ。</li> </ul>
利便性		<ul style="list-style-type: none"> <li>姉もバイクの旅が好きでよくあちこちの駅で野宿をしているが、こういう駅があれば野宿の心配がないからいい。</li> <li>昔は電車などの旅の宿泊は駅に野宿だったので、旅好きにとってはとても便利な宿である。</li> </ul>	
閑散性	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅長さんが居なくなり、本当に人がいなくてさみしかった。</li> <li>さびれていくのが寂しかった。</li> <li>今よりも人がいなくて、閑散としていた。</li> <li>通勤・通学だけでなくスキーをする人も比羅夫駅を利用して、とても賑わっていた。</li> <li>車線も複雑で、大きな駅だった。</li> <li>通勤・通学の利用者がたくさんいて、人が多く賑わっていた。</li> <li>今は人が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音もなくて静かだ。</li> <li>なんにもない、音もない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音がないところ、ビルなどが何も無い景色。</li> </ul>
再訪性		<ul style="list-style-type: none"> <li>月 1 で来たい。</li> <li>次は娘も連れて来たい。</li> <li>また来年も来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊まってみたい。</li> </ul>

(インタビューをもとに筆者作成)

### 1) 交流性

近隣住民・宿泊者とも比羅夫駅について交流を求めている点で共通するが、その対象は一致しない。しかし、両者の意識に相違はあるものの実際に挨拶などの交流が起こっている。このことより、比羅夫駅が両者の偶発的な交流の場となっており、両者とも交流性を評価している。

具体的な発言をみると、近隣住民は、「比羅夫駅の周辺でする事が何もないため、自分の家の前まで色々な出身地、人種の人が現れ、話をしたり、挨拶をしたりする事が楽しいし、嬉しい。」「駅に散歩に行くと会えるのがうれしい。」「バーベキューをしている姿を見るが、自分もバーベキューに参加して若い人と話す機会が欲しい。バーベキューがおいしそう、加わりたい。」などの評価から、比羅夫駅への地域外の利用者との交流を目的として利用している。

一方、宿泊者は、「こういうところ（旅先）で出会った人と共通点が見つかったりするの面白い。ここでしかない出会いがある。一期一会が素敵。」「初めて会った人同士でお酒飲んで、いっぱい喋ってとっても楽しい。」という評価から宿泊者同士での交流を目的として利用しているが、近隣住民との交流は求めていることがわかる。

### 2) 非日常性

宿泊者は、都会の喧騒から離れ静かに過ごせるという非日常性空間を評価している。

具体的な発言をみると、「俗世から離れた感じが好きで、仕事の電話などが掛かってきたら嫌だから汽車から降りるときは必ず携帯電話の電源を切ると決めている。」「普段の疲れが取れるし、日常のことを忘れられる。」「時間がゆっくり流れている。」などの発言から、非日常性空間を評価していることがわかる。

### 3) 希少性

宿泊者・駅訪問者は、ホームに飲食スペースがある、滞在中列車を間近に見れるなど、古い駅舎を民宿に転用したことによる希少性を評価している。

具体的な発言をみると、宿泊者は「暖炉や机など宿全体の雰囲気がノスタルジックでいい。」「ほとんどの無人駅は今ではもう駅舎自体が無いので、駅舎をそのまま使った民宿にはできない。昔の駅舎をそのまま使っているのが魅力。」という用途転用したことに対する発言や、「一人で泊まる時、ホームで一人でバーベキューをするのが恥ずかしかったが、今は一人で食べているのを電車から見られている事をむしろ気持ちよくさえ感じるようになった。」「ホームでお酒が飲めるのが最高。」という民宿としてのサービスに対する発言があり、希少性を評価していることがわかる。

一方、駅訪問者は「駅があると聞き、どうせ無人駅だろうと思って暇つぶしに来てみたら、宿になっていて驚いた。」「妻に言われて来てみたが、本当に駅に宿があってびっくりした。」「昔懐かしい空間

が味わえるのが贅沢。」などの発言から、希少性を評価していることがわかる。

#### 4) 景観性

宿泊者・駅訪問者は、都会では見られない景色として景観性を評価している。

具体的な発言をみると、宿泊者は「外を見ると緑ばかりで、普段見ない風景だからいい。」「何も無い風景が都会にはない。」「星が綺麗、空気がきれい。」という発言から、景観性を評価していることがわかる。

一方、駅訪問者は「都会ではまず味わえない田舎らしさ。」という発言から、景観性を評価していることがわかる。

#### 5) 利便性

宿泊者は、利用者の少ない無人駅にも関わらず宿泊できるという利便性を評価している。

具体的な発言をみると、宿泊者は「姉もバイクの旅が好きでよくあちこちの駅で野宿をしているが、こういう駅があれば野宿の心配がないからいい。」「昔は電車などの旅の宿泊は駅に野宿だったので、旅好きにとってはとても便利な宿である。」という発言から、無人駅を民宿が用途転用していることによる利便性を評価していることがわかる。

#### 6) 閑散性

近隣住民は、複合化以前の無人駅を寂しいと捉えていたが、現在駅利用者が増えていることを歓迎している。一方で、宿泊客・駅訪問客は、音がなく静かな所として閑散性を評価している。

具体的な発言をみると、近隣住民は「通勤・通学だけでなくスキーをする人も比羅夫駅を利用して、とても賑わっていた。」「車線も複線で、大きな駅だった。」と、無人化される前の比羅夫駅が賑わっていたころを振り返り、無人化前後の無人駅の様子を「駅長さんが居なくなり、本当に人がいなくてさみしかった。」「さびれていくのが寂しかった。」と振り返った。民宿と用途転用された比羅夫駅を「今は人が増えている。」と歓迎していることがわかる。

一方、宿泊者・駅訪問者は、「音もなくて静かだ。」「なんにもない、音もない。」「音がないところ、ビルなどが何も無い景色。」などの発言から、閑散性を評価していることがわかる。

#### 7) 再訪性

宿泊客・駅訪問者は、比羅夫駅に再び訪れたり、他者に紹介したいと感じており、再訪性を評価している。

具体的な発言をみると、宿泊者は「月1で来たい。」「次は娘も連れて来たい。」「また来年も来る。」

と発言し、一方で、駅訪問者は「泊ってみたい。」と再訪性を評価している。

再訪性はこれまで述べた交流性・非日常性・希少性・景観性・利便性・閑散性により起こり、この再訪性が、交流性の維持につながると考えられる。

## 第 7 章 ライフストーリーインタビュー

---

7-1 調査対象

7-2 対象者にとっての JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」

## 7-1 調査対象

調査対象は、倶知安町樺山在住で比羅夫駅から倶知安駅まで通勤している夫婦の妻である。比羅夫駅を通勤として利用しているのは唯一この夫婦のみであり、夫とは日程が合わなかったため妻のみライフストーリーインタビューの協力を得た。

### ・調査対象の基礎情報

年齢：64歳（夫：66歳）

職業：倶知安町高齢者事業団（60歳くらいから採用。仕事の内容は、トマトのパック詰めなど。  
週2、3回を目安に働いている。）

小学校・中学校と樺山で育ち、30歳半ばから札幌や道外などを転々とした後、50歳半ばで倶知安町樺山に戻ってきた。

ライフストーリーインタビューでは、比羅夫駅「駅の宿ひらふ」の評価を中心に、無人化以前の比羅夫駅の様子や近隣住民の暮らしなどや、調査対象のこれまでの生活、家族、友好関係などを質問した。

これまでの行動観察調査・インタビュー調査の結果を踏まえ、ケーススタディとして捉え分析する。

## 7-2 対象者にとっての JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」

ここでは、これまでの行動観察調査・インタビュー調査の結果を踏まえ、対象者の発話より、JR 比羅夫駅「駅の宿ひらふ」に対する認識や評価の部分を引用し、ケーススタディとして捉え分析する。

無人駅になった時や宿ができた時に思ったことを尋ねた際、

そう、うれしかったよ。もー、寂れる一方だな、もー、と思ってたのにね。よかったです。

と、言っていることから、閑散性を認識していること、また、比羅夫駅が民宿に用途転用されたことを歓迎していることがわかる。

また、交通の便などの利便性を考慮すると、倶知安駅周辺の方が便利だと思われるが、なぜ比羅夫駅に住んでいるのかと尋ねると、

うん、そうそう、みんなね、お友達とか、前任んでたこの知り合いとかね、同級生とかはね、こっち住めばいいじゃんとかってね、いうけど、田舎に住みたいって思って帰ってきたんだから田舎に住まわせてとかってね。

野菜でも花でもね、全然成長が違うんだわ。札幌で咲かなかった花もね、連れてきたんだ、全部。こっちに来て3年もたつてからばかばか咲いて、あーあーあんた芽が出てきて花見せてくれたのーって花に喋りかけて・・・、日当たりが違うし、空気も違うんだろうね。同じ山菜でも土が良いところはね・・・小指と親指くらいの違いあるもんね。おいしい、甘い。いただきましたって言ってね。藪に向かって、いただきましたって。すごく楽しい。

と、利便性よりも景観性を認識、評価していることがわかる。

さらに、駅に常に人がいる状況についてどう思うかを尋ねると、以下のように答えた。

本当にそう思う。これ誰もいなかったら、そういうこともできなかったしね。前に、今頑張って走ってるんだけど、汽車に間に合わないんだ。ちょっとあと一人きまずって言って。って過去に一回くらいあった気がする。

— (中略) —

ここでリュックおろして、おろしたままリュックを忘れて両手の物だけ持って帰ってって、黒いリュックどうした？って、駅の待合室に置いて来たわって、電話して奥さん頼みあるんだけど、駅の待合室のベンチに黒いリュックを置いてきたよなんだけど・・・見えます！ありましたよ！って。お父さんといつも（オーナー）さんいてくれてよかったってね。だんだん年行ってるのにね、っていつも話してるよ。

この答えから、比羅夫駅に民宿が用途転用された近隣住民にとってはオーナーが駅員のような役割を担っていることがわかる。無人駅であるにもかかわらず常に人がいることで、調査対象が通勤で駅を利

用しやすくしていると考える。

次に、比羅夫駅に民宿ができたことでよかったことを尋ねると、以下のように答えた。

いろんな人間模様が見えるのよ。降りたらほらここで、ね、(バーベキュー) 焼いたり、みんなが嬉しそうに楽しそうにしてるの見たり、おかえりなさいなんていってたり、そういうの見たりすると、みんな喜んでる姿を観るのは良いもんだと思ってね。やっぱりここに出来てよかったよって思ってね、最初はほらここ建物だけで残ってたけど、だんだんだんだん人も増えてきたしね。

— (中略) —

どうしても限られるよね、交際範囲が。どうしても年齢の人ばかりだからね。お客さん増えたみたいでいいね、とかいってるんだ。次の日おんなじ車で帰る人がいっぱいいるわけよ。そしたら乗り場こっちだよーとか、乗り方とかを教えとあげるわけよ。そうすると、泊まる人いたって言うのはいいことだねって。

— (中略) —

そう、みんな手ふるのよ。学生さんもみんな手ふるの。そういうの見てるとあぁいいなあってね。

この答えにあるように、調査対象にとって「駅の宿ひらふ」は狭くなりつつある交際範囲を広げるきっかけになっている。また、直接的な交流がなくても、お見送りやバーベキューなどをホームで行う「駅の宿ひらふ」がある比羅夫駅を毎日見ることで、間接的に他の地域から来た人やいろいろな年齢の人と関わるができる施設となっており、これは交流性を認識・評価しているといえる。

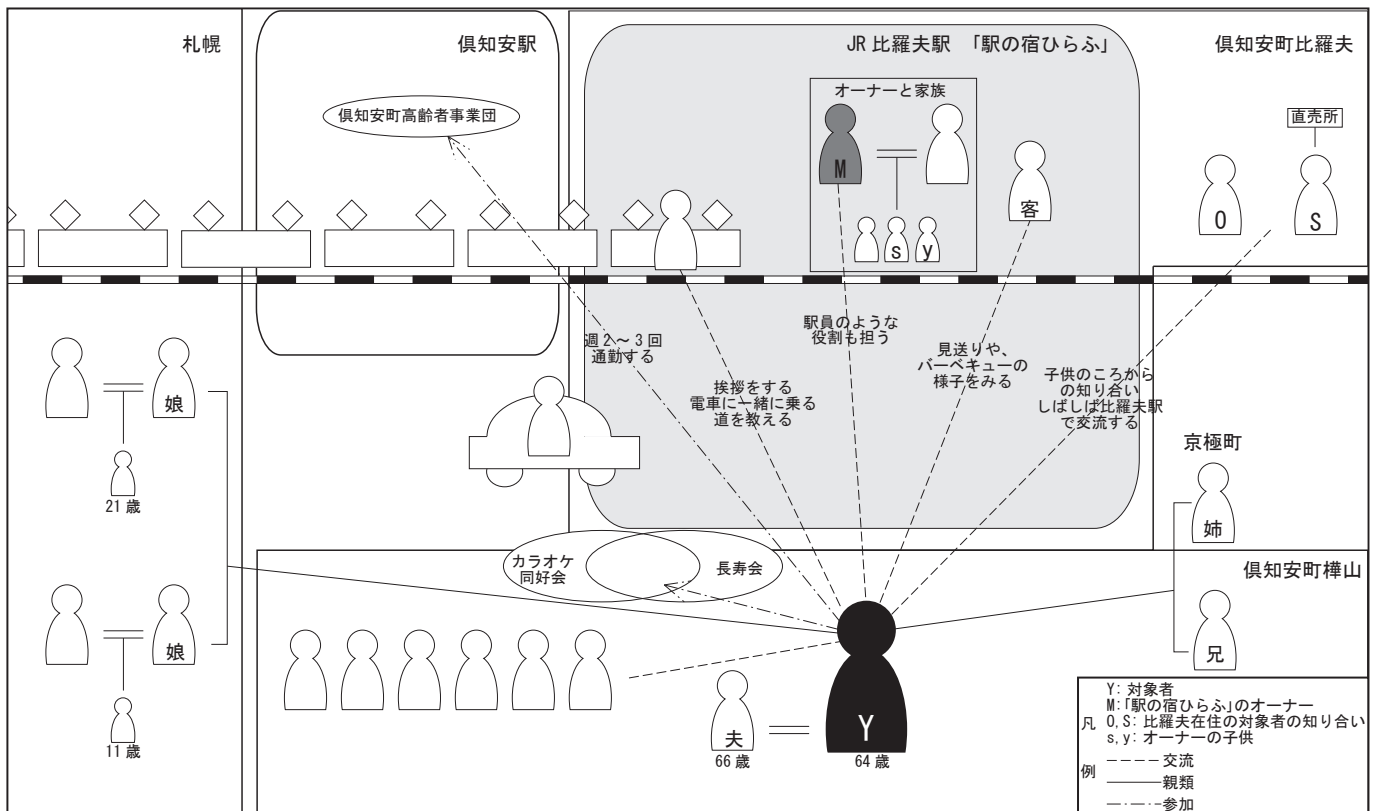


図 7-1 比羅夫駅と対象者の相關図  
(インタビューをもとに筆者作成)

## 第 8 章 考察とまとめ

---

8-1 考察

8-2 まとめ

## 8-1 考察

分析より、以下のことが推察される。

- ・ 宿泊者・ 駅訪問者が比羅夫駅を利用する目的は、古い駅舎を民宿として転用したことによる希少性や、比羅夫駅周辺の環境がもたらす非日常性・ 景観性・ 利便性・ 閑散性による。
- ・ 近隣住民が比羅夫駅を利用する目的は、複合化以前に比べ頻繁に訪れる宿泊者・ 駅訪問者と出会える交流性による。
- ・ 宿泊者・ 駅訪問者が評価する再訪性があることで駅利用者の交流性の維持につながっている。
- ・ 「駅の宿ひらふ」において宿泊サービスの利用が駅全体で展開される空間的特徴が交流を促している。

「駅の宿ひらふ」は特定の受益者のために利用される施設であるが、その付加機能の希少性や空間的特徴により、異なる属性間の交流の場となっていることが、無人駅に「駅の宿ひらふ」が存在することの新たな公共的意義であるといえる。

## 8-2 まとめ

JR 比羅夫駅の周辺は過疎化が著しく、また高齢者ばかりであり、交際範囲が固定されがちであった。しかし、「駅の宿ひらふ」に用途転用されたことによって、普段なら会う機会がないような年齢・出身地・国籍の人が訪れるようになり、交際範囲が固定されがちな過疎地域に居ながら、さまざまな人と出会うことができるようになった。宿泊者・駅利用者は比羅夫という場所がつくり出す非日常的な空間を求め訪れ、近隣住民はその訪れた宿泊者・駅利用者との交流を求めて毎日のように散歩に訪れるなど、近隣住民にとって「駅の宿ひらふ」は重要な交流施設になっていると考えられる。

また、「駅の宿ひらふ」は、玄関の位置、駅前広場とホームの間に仕切りがないなどの空間的特徴により、異なる属性同士の行動範囲が重なり接点が生まれる。このことも異なる属性間の交流が生まれる要因の一つであると考えられる。

このように、比羅夫駅には交流施設のような役割が生まれていることがわかるが、この役割は本来駅や民宿では求められない。しかし、駅と宿という二つの機能を兼ね備えた比羅夫駅には、交流を第一の目的として訪れる近隣住民がいるなど、交流のきっかけを与える役割が大きくなっている。

これらのことから、本研究では無人化駅舎が用途転用した「駅の宿ひらふ」における公共的意義を、交流を生み出すきっかけを与えていることとする。過疎化が進む比羅夫では「駅の宿ひらふ」ができたことで近隣住民に多くの交流をもたらし、交際範囲を広げることができるという点で重要な交流施設となっており、無人駅に占有性の高い民宿という機能を複合化した際に副次的に起こる効果の具体例を示した。

今後は、無人駅に他の木の王が複合化された際に、地域に起こる公共的意義について考察し、そこに見られる公共性について議論していくつもりである。

## 参考文献一覧

- 1) 臼井幸彦,「鉄道駅における公共概念とその変容に関する研究」日本建築学会計画系論文集 第538号,173-179,2000年12月
- 2) 寺本茂弘, 藤谷幸弘, 前田博子,「自治体主導型ローカル複合駅の特徴 - ローカル複合駅による地域活性化に関する研究 その1」日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) pp.483-484,1997年9月
- 3) 寺本茂弘, 藤谷幸弘, 前田博子,「自治体主導型ローカル複合駅の評価 - ローカル複合駅による地域活性化に関する研究 その2」日本建築学会東海支部研究報告集 第36号 pp.733-736,1998年2月
- 4) 寺本茂弘, 藤谷幸弘, 前田博子,「ローカル複合駅における図書館複合に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) pp.171-172,1998年9月
- 5) 山下香織, 山崎寿一,「無人駅活用によるまちづくりの展開と地域コミュニティ」平成22年度日本建築学会近畿支部研究発表報告集 pp.313-316,2010年6月
- 6) 高橋拓夢, 森傑,「北海道の過疎地域における郵便局と地域コミュニティとの関係」日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) pp.1099-1100,2007年8月
- 7) 本久公洋,『北海道 鉄道駅大図鑑』北海道新聞社発行 2008
- 8)『ゼンリン住宅地図 虻田郡倶知安町 200805』

## 謝 辞

JR 北海道様および電話インタビューに協力してくださった JR 北海道の駅のみなさま、ご協力ありがとうございました。また、「駅の宿ひらふ」のオーナーである南谷さん、一週間の泊まり込みの調査を快く引き受けていただきありがとうございました。色々わがまを聞いていただき、とてもよくしていただきました。

北海道大学 建築計画学研究室では、森先生と森下先生にテーマ決めから調査・分析・執筆に至るまでの確なアドバイスとご指導いただきました。また、執筆の際には野村先生に幾度となく相談に乗っていただきました。研究室の先輩方にもたくさんアドバイスいただきました。特に、大瀧さん、浦野さん、長谷部さんは、多忙にもかかわらず、調査すらまともにこなせなかった私を見捨てることなく、最後まで面倒みていただき、叱咤激励していただきました。

何度も何度も心が折れ、逃げ出そうとしたこともあり、苦しい日々でしたが、支えてくださった皆様のおかげで何とか乗り越えることができました。深く感謝いたします。ありがとうございました。

## 資料編

---

表 複合化・用途転用された無人駅電話インタビュー結果一覧

駅名	複合した機能	運営	所有	管理(補除)	分類	予想対象者	実際の利用者	駅舎	無人化	複合化	主な複合化の目的	収入について	いきさつなど
浦臼駅	歯科診療所	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築	S61.1.1	H12.11	地域の利便性・コミュニティ	収入について	診療所の老朽化・利便性、北海道医療大学から派遣
新冠駅	交流センター	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築		H11.12.5	地元PR・観光		特産品のディスプレイ、ホスター、イベントなし
由仁駅	交流センター	公的機関	自治体	ポランテア	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築			地元のPR・観光		トイレがないのは困る、ポランテアが観光案内
自谷駅	交流センター	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築			地域の利便性・コミュニティ		待合の時の談話室、イベントなし
茶志内駅	交流スペース	公的機関	JR	JR	一部転用	地域	道内・全国(海外(駅前利用))	そのまま		H14	地域の利便性・コミュニティ		待合室で絵手紙教室
中富良野駅	展示室	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	観光客	道内(駅前利用)	新築			地元のPR・観光		ジョーカーズ展示のみ、PR
白滝駅	展示室	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	観光客	道内(駅前利用)	新築	S62		地元のPR・観光		ジョーカーズ展示のみ、PR
安国駅	展示室	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	観光客	道内(駅前利用)	新築	S62		地元のPR・観光		ジョーカーズ展示のみ、PR、養護施設で販売
細間駅	展示室	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	観光客	道内(駅前利用)	新築	S62		地元のPR・観光		観光案内所、ホスター
剣淵駅	展示室	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	観光客	道内(駅前利用者)	新築	S62		地元のPR・観光		ジョーカーズ展示のみ、過疎化の心配
浜中駅	展示室	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	観光客	道内(駅前利用者)	新築			地元のPR・観光		駅員の撮影
郷真駅	展示スペース	公的機関	JR	公的機関	一部転用	観光客	地域	そのまま			地域の利便性・コミュニティ		列車利用者及び住民の要望
豊地駅	図書コーナー	公的機関	JR	公的機関	一部転用	地域	地域	新築			地域の利便性・コミュニティ		掲示スペース、ホールとして行事はなし
熱帯駅	ホール	公的機関	JR+自治体	ポランテア	複合	地域	地域	新築			地域の利便性・コミュニティ		図書室十重展示スペース、他の街もやっているので、JRは立て直すのが無理といたったため自治体が立て直した
丸瀬布駅	生涯学習館	公的機関	自治体	自治体	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築		H21.1.17	地域の利便性・コミュニティ		町づくりの一環『文学シリーズ』
生田原駅	図書館、文学館	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	地域	地域	新築		H5	地域の活性化・荒廃の危機		開駅人の出入りの増加、地域の活動の中心、教育委員会指定管理者
女満別駅	図書館	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域(町内・隣町)	新築		H2	地域の活性化・荒廃の危機		故郷の玄関口、コミュニティ的な建物
佐久駅	伝承館(中川町役場)	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築	S61.1.1	H2	地域の利便性・コミュニティ		国道建設による商工業施設の移転、観光産業(特産品、パンフ、PR)、ホステル(カリー)
上ノ国駅	江差線・津軽海峡線(商工会(上ノ国商工会))	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築			地元のPR・観光		農業振興センター物産センター、会議室の一般貸出
雄勝駅	商工会(物産館)渾野町商工会)	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築		H2	地域の利便性・コミュニティ		観光協会 物産PR販売
石狩支庁	町出張所	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	地域	地域	新築		H2.24	地元のPR・観光		支所の老朽化+駅の老朽化、地域住民からの要望
大森毛駅	市支所	公的機関	JR+自治体	公的機関	複合	地域	地域	新築			地域の利便性・コミュニティ		公民館の老朽化+駅の老朽化、ホテル待合室、支所十軒+公民館(文化センター)
網内駅	市役所	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	地域	新築			地域の利便性・コミュニティ		交通機関の確保、補給交通が同居(バス)
厚床駅	交通ターミナル	公的機関	JR	JR	一部転用	地域	地域	そのまま		H1.11	地域の利便性・コミュニティ		地場物産加工施設、展示室、農家直売、PR、土地売却が買った
浜小清水駅	道の駅(アグリスター・シヨウ当麻)	公的機関	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	観光客	道内・全国(海外(レンタカー))	新築		H12.7	地元のPR・観光		関連事業収入、農業生産法人
当麻駅	売店(アグリスター・シヨウ当麻)	公的機関	JR	公的機関	一部転用	観光客	全国	そのまま		H2	地元のPR・観光		当時の郵便局長がJRにかけあう、近所にトラピスタ修道院があるため観光客も訪れる
渡島当別駅	郵便局	公的機関	JR+公的機関	公的機関	複合	地域	地域(+観光客)	新築		S63	地域の利便性・コミュニティ		コミュニティ的な建物、町にもお金を払う約束
日高三石駅	食堂(ふれあいサテライトかつし)	民間・個人	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	駅利用者(駅・国道)	地域	新築	S59	H4	地域の利便性・コミュニティ		観光クリエーション基地、食堂、簡易郵便局、観光案内・待合室
日高幌別駅	レストラン(レストランサン)	民間・個人	個人(会社)	民間・個人	独立(駅舎なしホームのみ)	地域	世界(地域はあまりない)	新築			地元のPR・観光		無人化で寂しい
樽屋駅	喫茶店(ワウコ&8001)	民間・個人	JR	JR	一部転用	観光客	世界	諸室を改装		H9	地域の活性化・荒廃の危機		無人化で寂しい
川湯温泉駅	喫茶店(オーチャードグラス)	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	観光客	世界	諸室を改装		S62	地域の活性化・荒廃の危機		過疎化の心配、JRが近所の店を閉めた
津琴駅	喫茶店(トロッコ)	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	観光客	道内	諸室を改装		S63	その他		テナント、空き店舗があった
登壇駅	喫茶店	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	駅利用者	全国	諸室を改装		H2	地域の活性化・荒廃の危機		無人化で寂しい
沼ノ沢駅	レストラン(レストラン・オヤマ)	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	観光客	世界	そのまま	S62		地域の活性化・荒廃の危機		夕張に若い人を呼び込む
月ヶ岡駅	直売所	民間・個人	自治体	公的機関	独立(駅舎なしホームのみ)	地域(農村)+道内(駅・国道)	地域(農村)	新築		H5	地域の利便性・コミュニティ		売上げは農家の機
十弗駅	図書コーナー	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	駅利用者	駅利用者	そのまま			地域の利便性・コミュニティ		掃除の人が自主的に、
鹿野駅	図書コーナー	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	駅利用者	駅利用者	そのまま		H14	地域の活性化・荒廃の危機		荒廃の危機、絵手紙サークル
比羅夫駅	民宿(駅のむらふ)	民間・個人	JR	民間・個人	一部転用	観光客	道内・全国(海外)	諸室を改装			地域の活性化・荒廃の危機		荒廃の危機

表 近隣住民インタビュー結果一覧

近隣住民	普段の利用状況				評価					
	買い物など、JRの利用以外で、普段どこに行か、その目的は何か	JR利用目的	目的地	駅に宿があったと思つた事	駅に宿があつた事	駅に宿がある今の印象	ホームの使われ方について	交流の有無	「駅の宿ひらふらふ」への要望・希望	
1月23回程度	買い物、長寿会会議 散歩、ほか道の投函	買い物、長寿会会議	俱知安駅	色々な人に会える事、人が常にいる事	特になし	無人駅になる前の駅に對する印象 通勤、通学だけでなく、スキーをする人も比較的多く利用している。車線も稼働で、大きな駅だつた。	無人駅になつてからの駅に對する印象 駅員さんが居なくなつて、本当にひとがなくてさみしかった。さびれていくのが寂しかった。	人が覗いているので、うれい、入れ替わり、又車の色々な出身地なつたので、駅に散がうれい。	自分の家の前まで宿泊客がある。いきてきて、挨拶をしてくれる。道外から来た宿泊客にカメラ屋さんの場所をたずねられた事をきっかけに世間話に花が咲いて、仲良くないこともあった。他にも比羅夫駅の周辺でする事が何もないため、自分の家の前まで色々な出身地、人種の人が到れるため話ししたり、挨拶したりする事が楽しいし、嬉し	「駅の宿ひらふらふ」への要望・希望 パーベキューをいしている姿を見るが、パーベキューに参加して、若い人と話す機会が欲しい
3使わない	—	—	特になし	特になし	通勤、通学の利用者がたぐさいて、人が多く賑わっていた。	今よりも人がいなくて、閑散とした。	訪れる人が増え、	特になし	特になし	
4週1回程度	買い物	買い物	俱知安駅	特になし	特になし	人が多く賑わっていた。	特になし	特になし	特になし	

表 駅利用者インタビュー結果一覧

	利用状況		利用目的				評価	
	今まで訪問し、宿泊した事があるか	利用したいと思うか	何をしに来たのか	旅の目的は何か	他にどこに行つたか	何で宿の事を知つたのか	何で宿の事を知つたのか	ひらふをどう思うか
55	初めて	ない	以前から「駅の宿ひらふ」の事を聞いていて、来てみたかった	北海道の事、行きたい、行きたい、行きたい	旅の間はずっと小樽に滞在している	知っていた	テレビで見て	音が悪いところ、ビルなどが何もない景色、都会ではまず味わえない田舎らしさ、音響がよい空間が味わえるのが良い
56	初めて	ない	夫が隣線などが好きで、ついでにきた	鹿線巡り	ニセコ	知っていた	夫に聞いて	駅に宿があるのはおもしろいと思う
57	初めて	ない	駅がある聞き、どうせ無人駅だろうと思つて暇つぶしにきてみた	ゴルフ	ゴルフ場	知らなかった	—	駅があると思う、どうせ無人駅だろうと思つて暇つぶしにきてみた、宿になっていて驚いた
58	初めて	ない	比羅夫駅を見に来た	礼願に住んでいる妻が遊びに来たので、寄つて	特になし	知っていた	テレビで見て	妻に言われて来てみたが、本当に駅に宿があつてびっくりした
59	初めて	ない	比羅夫駅を見に来た	俱知安に住んでいる夫が連れてきてくれた	特になし	知っていた	テレビで見て	テレビで見て来てみた、駅に宿がある光景は面白い、泊まってみて



## ライフストーリーインタビューの発話内容

2010年10月22日(金) 14:30～

インタビュー時間：約1時間10分

以下、調査者：I

対象者：Y

「駅の宿ひらふ」オーナー：M

I：もともと比羅夫の方ですか

Y：そうです。Uターンみたいな感じです。ずっとここで大きくなって、んー20年くらい札幌に行ってて、また帰ってきたんです。

I：札幌でお仕事されてたんですか。

Y：そうですね。もうおばさんになってたけど。

I：そしたら、比羅夫で生まれて小・中・高はこっちなんですか。

Y：そうですね。

I：どこの学校に、倶知安ですか？

Y：樺山。小学校中学校・・・ですね。

I：その時は交通機関としては・・・

Y：うん、地元だから。交通機関は・・・あのね、この山の上の方にね、樺山小中学校ってね、小学校も中学校も併設されてたんですよ、そのころは。結構生徒も多かった。

I：どれくらいいたんですか。

Y：うーん、・・・・・・100・・・・・・130~50はいました、その頃。

I：全学年合わせて？

Y：ぜーんぶ。そう、小学校から中学3年までね、そのくらいいました。

I：昔、小さい頃とかに比羅夫駅は結構利用していましたか。

Y：そうだね、やっぱり親に連れられてだとか、親戚に行くとか言ったら昔汽車しかなかった。

I：昔結構賑わってたとかって話はよく聞くんですけど、

Y：うーん、そうそうそう。ちゃんと向かい側にもホームがあつてね、それで、向かい側は下りで札幌行き、こっちはニセコの方に、ってここで電車がすり合わせるっていうそういうこともあつた。

I：無人駅になった時や宿ができた時に何か思ったりした事とか・・・

M：やっぱりたびたび札幌から帰ってくると、あれ？こっちのホームなくなったとかさ、それから、え？ここ道の駅って言うか比羅夫駅が泊まれるようになったんだとか、ね、若い人が、あ、奥さんが！、あら、子供さんが！ってかんで、あ、やったやったじゃん、ずっと住んでくれそうだねなんてね。

I：あーやっぱ嬉しいですか。

Y：そう、うれしかったよ。もー、寂れる一方だな、もー、と思ってたのにね。よかったです。

I：宿ができていろんな人がこうたいごうたいでくるのとかも、嬉しいなって。

Y：あー、活気出てきたなー、とか、でほら、どっちからあそこ行けますかとか、ほら一緒に降りると聞かれるとかはずいぶんあつて、もうあたし携帯で話してるから話したらとかって、そこまでしなくてもいいしょとかって・・・さっきありがとうございますとかってカタコトでね、外人の方が多かったけどね。

I：もっと交流したいなとか、ありますか。

Y：やっぱね、英語もろくに習ってないからちょっと戸惑って自分からわーっていけない、けど、挨拶だけは必ずするようにしてます。もう、思い切ってこんにちとはとか、こんばんわとか、おはようございますとかって、あえて日本語で。そうすると向こうも日本語で応えてくれる。今から英語の方に力入れなくても、そっちがこっちに住んでんだから努力してくださいってね。

I：札幌に住んでたのは何歳くらいから。

Y：30・・・・・・34歳くらいから54歳くらいまでかな・・・・・・う、あ・・・・・・もっと札幌に居ましたね。ごめんなさい、ちょっと・・・・・・うーん、26、7年は札幌にいました。

I：結構長いですね。

Y: うん、長い。うん、そうそう 30 年近くは行ってました。

I: 最初に札幌に行ったきっかけってなんですか。

Y: うーん、・・・ちょっと人間関係とかでね、なんか・・・えっとね・・・ちょっと偏屈だったから。・・・うん、それで子供が専門学校とか札幌に行ったから、そしたら私も行こうかなあって。ほら、私バツイチだから、いやバツイチでない、バツニだ、バツニなの、それで、行って、そしたら下の娘も来たから、そのまま札幌にずっといるようになってしまったの。

I: 今旦那さん・・・

Y: も、ここの駅利用して、お仕事も、年齢いったんだけれども、こういうシルバー人材センターみたいなどころ在籍して、仕事の依頼があれば、ここ利用していくようになってます。

I: どういう団体・・・どういふ活動をする・・・

Y: 高齢者事業団って言って、倶知安町高齢者事業団って言って、60 歳くらいから採用してくれるんです。仕事の内容は、高齢者じゃなくて労働者事業団みたいな、凄いいハードなんです。のんきにしてくれないっていうか、わさわさ働く団体だと思って思うけど、みんな帰って来る人は、はあって、もっとじいちゃんばあちゃんだからゆっくりかと思っただけだね。でもね、時給も結構いいんですよ。札幌辺りで働いてても 600 何十円とかだったのに、ここは 700 円とか 800 円とかくれるんですよ。びっくりしちゃって、じゃあ働かなきゃ、これに見合う仕事って思っただけ。

I: 週何回くらいとかっていうのは・・・

Y: 目安にしたら週に 2, 3 回は働いてるよ。今あたし 1 回くらいになったけど、夏場とかはめっちゃ忙しくて、トマトのパック詰めとか、もう土曜日まで。はたらかせてもらってます。

I: 比羅夫と札幌以外に住んでた街ってどっかありますか。

Y: ・・・うん、でも期間短いからね、2 年くらいでも良いの？じゃあ余市。

I: 道外とかはほとんど住んだことないんですか。

Y: 道外も茨城県とか・・・3 年くらいかな。3 年くらいだったと思う。

I: 他の地域に住んでて、やっぱり比羅夫にまた戻ってきたって言うのは、なんかどういう理由があるんですか。

Y: まず、・・・私たちって言うか、旦那さんと私は凄く花作り野菜作りが、好きだし、山菜が好きな。札幌から春になったらね、普段あんまり仲良しじゃないんだけど山菜を採りに行くってなったら、話が弾んじゃって、・・・山菜とりに来てましたね。

I: 札幌に住んでる時に。

Y: そうそう。朝早ーいので来てね、山菜を両手に提げて、リュックにしよって、こんな。で、夕方ね帰って行ったな一つ。今はもう、自転車ですてひょいひょいひょいひょいって採ればいだけだからね・・・うれしいです。

I: それが一番の魅力ですか。

Y: 魅力。それにね、鳥がね。もう数えきれないくらいの種類の鳥がいるからね・・・あ、あの鳥なんだ、とかね、図鑑に載ってないんじゃないかとかってね、いってね、楽しんでます。

I: 便利さでいったら、倶知安の方がいいと思うんですけど。

Y: うん、そうそう、みんなね、お友達とか、前住んでたこの知り合いとかね、同級生とかはね、こっち住めばいいじゃんとかってね、いうけど、田舎に住みたいって思っただけから田舎に住まわせてとかってね。

I: やっぱりここがいいんですね。

Y: 野菜でも花でもね、全然成長が違うんだわ。札幌で咲かなかった花もね、連れてきたんだ、全部。こっちに来て 3 年もたってからばかっぱかって咲いて、あーあーあーんた芽が出てきて花見せてくれたのーって花に喋りかけて・・・、日当たりが違うし、空気も違うだろうね。同じ山菜でも土が良いところはね・・・小指と親指くらいの違いあるもんね。おいしい、甘い。いただきましたって言ってね。藪に向かって、いただきましたって。すごく楽しい。住まいはねログハウスでもなく普通の住宅でもなくてね、プレハブに住んでんの。でもね、いまね、結構、あの、ストーブがよくって、まきをちゃんと確保してあれば全然寒くないの。

I: 小さい時に住んでた家とはまた違う家に住んでいるんですか。

Y: そう、小さい時に住んでた家は、兄が住んでるから。で、ちょっと兄さん、安くこの土地売ってよってね、150 坪だけ売ってもらったの。家のそばの土地をね。うん、いーぞーって言ってね、分けてくれたの。中古のプレハブを買ってぱんぱんって、上にもちょっとちょんつと、やってね。まだ完ぺきじゃないけど、いつまで生きるか分からない、もう 60 過ぎたから。

I: おいくつなんですか。

Y: 64。お父さんは 66。

I: 旦那さんは昔からのお知り合いなんですか。

Y: ううん、違うの。あのねえ、紹介してくれる人が居たのね。ほら私バツニって言ったでしょ。もう、良いよ、私もこれ以上被害者つくりたくないわって、加害者意識があるからね。私と一緒にしたことでもう不幸感じたらかわいそうだから・・・って、そんなことない、考えてみて、考えてみてって。縁があったのかね、何とか真面目な、真面目なだんなさまが当たりました。福引にあたったようなものです。小堺かずきとあほの坂田と一緒にした感じだもんね、あはははは、丸顔で小柄で薄くて鼻がおぺちゃで。でもねほんとに働き者で、なんでも頼めばやってくれるしね。

M: 良いご主人ですよ。

Y: もう、ありがたいです。

I: お子さんは、また別に・・・

Y: 最初の旦那様の時に出来た子が2人。二人とも北区(札幌)に住んでる。

I: 結婚されてるんですか。

Y: うん。お孫ちゃんが、一人にひとりづつしかいないんです。孫が2人しかいないんです。

I: お孫さんとかが比羅夫に遊びに・・・

Y: 小さいうちは来てたのね。

I: おいくつなんですか。

Y: もう、大きい孫は21、小さい方の孫は11かな。小学5年生ね。喜んでね、鬼ヤンマとか見て、こんな大きいトンボ初めてとかって、だんだん虫の数が増えてむくむく動いたり、蛾が羽ばたいたりするのとか、もう怖いから行かないとかって言うようになってしまったの。あ、Mさんすみません、お土産いただいたちゃって。いやあ、全然違う味がしました。

M: あれおいしいでしょ。デパート行くと夕方にはぜんぶなくなってしまうんです。

— (中略) —

Y: yちゃん(オーナーの娘5歳) 昼間幼稚園行ってるんですか?

M: 保育所にいってます。

Y: あーそれで、大分おしゃまになって。

— (中略) —

I: Mさんとは結構、喋りしたりご近所づきあいは・・・

Y: というよりあたしは、孫みたいなものでしょ?だから、おやがどう思ってるのかはわからないけど、うっかり話し込んで、その線路のふちでホームに肘ついてs君(オーナーの息子8歳)とおしゃべりして・・・きりがいいですよ、良い所でって言われるのMさんに。・・・でも奥さんともお話するようになって。ここのおくさんもお話好きなんですよ。

I: なんかご近所さんと言ったら、どれくらいの範囲というか、どの家の人と仲が良いとかってありますか。

Y: ...そこのSさん(Yの友人、比羅夫駅近隣住民)って言うおばあちゃん居るんだ。

I: 直売所やってる・・・

Y: そうそうそう。あのお母さんは私がまだ小さい時、母が農家なんかやってて、お手伝いに来てくれたんだ。凄くお世話になったの、ほんとにお世話になってね。向こうのおばさんに言わせるとね、いやあ私の方がお世話になったよおばさんによくしてもらって、来て来て言ってもらって、働かせてもらって、なんて言ってね・・・

— (中略) —

I: この前にもうちちょっと上の方のおばちゃんが迎えに来てたりしてるの観ました。

Y: ああ、Oさん(Yの友人、比羅夫駅近隣住民)のとこのね。あのおばさんも私が小学生のときなんかによく手伝いに来てくれて、私お世話になったと思うから、こんな物作ったんだとか言ってね、Sさんのお姉さんも、Oさんのお姉さんもね、これ持ってって食べなさいとか言ってね、漬けておいたの食べなさいとか言ってね、いただいたみょうがの漬物どこでなくしたかなとか言って、Mさんに電話して、こういうもの落としたんだけどとか言って、Sさんが探しに来て持ってったみたいですよとか言って行ってくれてね・・・

I: でもやっぱ駅に人がいてよかったですね。

Y: 本当にそう思う。これ誰もいなかったら、そういうこともできなかったしね。前に、今頑張ってるんだけど、汽車に間に合わないんだ。ちょっとあと一人きますって言って。って過去に一回くらいあった気がする。ね、Mさん!

M: ありましたね。

Y: 僕を何だと思ってるんだってね。

M: いえいえいえ、うちのお客さんでも間に合わなくて停まってもらうこともよくあるんで。7:45とかになると朝ごはんの時間とかもあって結構バタバタになるんですよ。でちょっと待ってもらえます、とかいって、ははは。

Y:比羅夫には二人くらいいるよ。で、橋をこえると樺山っていう地名になるんだけど・・・川の向こう側は、樺山っていうの。そこは、まあ、私もう、6人くらいいるかな。

I:6件くらいの集落ってことですか。

Y:いや、集落はもっとたくさん家あるんだけど、そんなに頻繁には行ったりしないけど。

I:そこはバスとかってないんですか。

Y:(地形の説明をして)ここちょっと盆地みたいになってるのね。上がって行くと、さっきの樺山小中学校があるし。

I:そこにいる人は、ここの駅を利用しているんですか。それとも車・・・

Y:こんな時代だからね、みんな車。でね、そっから上がったところには一日に2往復くらいバス。か、スクールバスも来るけどね。

I:車に乗ろうとかっていうのはあんまり思わないんですか。

Y:おもわない。お父さんがね、免許も車も持ってたんだけど、札幌のあたり交通機関いっぱいあるでしょ。でね、眼帯出血して目がちょっとね、ぶれて歪んで見えるから危ないからって言って、まず車を手放して、免許は残してんだけど、あんま乗らないでいると免許がいつ書き換えが、なんてあんま考えないでいるうちに1年くらい経ってたの。でこういう訳なんだけど、なんて言ったら、取り直してくださいって言われて、もういいかって、で、そうだそうだ、もう危ないから、こんな坂の多いところで乗ろうとしないでってお願いして、それで、バスと汽車になった。

I:車とかないと緊急時とか・・・

Y:そういう時は、結構お友達がいるから、HELP!っていうとね、水道凍結しちゃった!水!とかね言うと、ペットボトルに入れて持ってきてくれる。どうしても倶知安に行かなきゃいけないんだけど、とかって言うと、待って20分待ってとか言って来てくれる。で、兄がすぐそばに住んでいて車持ってるんだけど、もう70過ぎてるから、夜は行けんぞって昼はちょっとちょこちょこ頼める。

I:お兄さんは一人で住んでらっしゃるんですか?

Y:そうそう。一人で住んでるの。高齢だから何何買ってきてとか私たちが言うといいよいいよってしてくれるし、兄もたまに温泉でも言ってくるかって誘ってくれるから、ほいのほいのって喜んで出してる。ちょっと行けば温泉あるしね。

I:他に近所の奥さん方と遊びにいたりとかってあるんですか。

Y:高齢者事業団に入ってるし、長寿会ってあってね、そういうのにも入ってるから、やれ温泉ですとか、やれお楽しみ会ですとか、やれカラオケだとか・・・

I:カラオケとかもあるんですか。

Y:カラオケ同好会もあるの。

I:カラオケってどこにあるんですか。

Y:あのね、樺山小学校のすぐ隣にね、寿の家ってね、集落の会合とか、お年寄りの集まりはそこを利用するの。DVDをかけて、するの。

I:他に娯楽ってあるんですか。

Y:パークゴルフかい?今パークもね、あっちこっちの街で盛んだからね。

I:場所によって友達のメンバーが違うんですか。

Y:重複してるよ、結構。長寿会でも合わすし、カラオケでも顔合わすして感じ。

I:みんな仲良しで良いですね、助け合ったりとか。

Y:仲良しでなくてもね、たまに気に入らない事あったりとかしたらずけっていう。直接言えちゃう。気悪くしないでねって、思ってること言わなかったら体に悪いからって。いーよーとかって。

I:将来もずっとここに居続ける・・・

Y:居続けますね。娘はね、どうしてそんな高齢になって病院もろくにないところ行くの?って二人揃って言うからね、いやいやいや、病気になるとは限らんし、今の時代ドクターヘリですぐ札幌の病院行けるし、大丈夫大丈夫、健康のために田舎行った方が良いんだって。反対を押し切ってきたら、やっぱり良かったです、来て。

I:親戚以外の友達とかが比羅夫に遊びに来たりとかってありますか。

Y:くるくる行って誰も来ないんだよね。きつとね山菜です野菜ですって荷物が届くしね、行かなくなると食べさせてくれるしって思ってたのかな。食べたいなーと思ったら来るんだろうけど、食べたいなーと思う頃には届くから。彼らは来ないんだ。

I:その人たちにこの駅に宿があるっていうことを紹介したりしますか。

Y:あるある。何人にもしたらね、行ってみたーって、テレビで一回見たよとかって言うんだけど、実際には来ない。私

たちも泊まってもてなしてもらいたいねーとは言ってたよ、お客さんとして来たいねーって。でも高齢者事業団に入ってから忙しくてね、どっちか仕事だったりどっちも仕事だったりしてね、Mさんにも何回も迷惑かけてね。ここでリュックおろして、おろしたままリュックを忘れて両手の物だけ持って帰ってって、黒いリュックどうした？って、駅の待合室において来たわって、電話して奥さん頼みあるんだけど、駅の待合室のベンチに黒いリュックを置いてきたようなんだけど・・・見えます！ありましたよ！って。お父さんといつもMさんいてくれてよかったってね。だんだん年行ってるのにな、っていつも話してるよ。

I：無人駅の時はなかったんですか。

— (中略) —

Y：大根抜きにとかって札幌から来る時、兄が車もってるから、倶知安で降りて迎えに来てもらうことが多かったの。だからここで降りてって言うのがそんなに多くなかった。

— (中略) —

I：車が倶知安の方が行きやすかったってことですか。

Y：そうね。倶知安で降りて、結局京極町に姉が住んでるんだけど、やあ実はねお盆にはあちゃんの何回忌を兄弟集まってやるんだけど、お盆くらいしか集まれないしとかいって、はいはいって言って姉に拉致されていって、お手伝いして、倶知安駅に送ってもらって帰ったりしてたから。自分で住んでこまのんびり帰ってきてとかっていうのはなかったんだよね。うちの今一緒にあったお父さんが、みねのぶっていうところに札幌の友達がね60坪くらいの土地があるからっていって、20万で売るからって言うけどね、いまさら家建てれないしって、プレハブ建てれば良いじゃん今あったかいしって言われて、いいねって言ったら、お父さんに嫌だよみねのぶなんて寒いし、比羅夫の兄さんのとこが良いって言うの。兄さん私でさえ気が合わないのにお父さんうまくやっけていけるのって、いや、俺努力するから、交渉してみるって、じぶんで電話して兄さんに・・・とんとんとんと話が決まってね。こちらに向かってきたんです。

I：何年住んでるんですか。

Y：もうね、19年の三月に向こうやめたから・・・3年以上たつね。その前からね、徐々に引っ越しては来てたの。それこそ姉に頼んでね、花を引っ越したり、で本格的に引っ越したのが19年ね。

I：以前は何のお仕事をされてたんですか。

Y：公団。悪いことした公団。お国のアパートみたいな、アニータの会社の下請け会社ね。廊下とか玄関ホールとかエレベーターとかを手入れする仕事してたの。何年もね、してたんだ。

I：旦那さんはなにをしてたんですか？

Y：お父さんはね倉庫屋さんに勤めてたの。去年かおととしかに倒産したんだけどね、お父さんはそこに何十年も使ってもらってたんだ。退職してからはねすすきの飲み屋さんのビルに勤めてたの。そこでね、警備服着て警備、トイレ掃除、除雪。警備と言えば聞こえはいいけど、トイレ掃除してた。

I：ご両親は農家をされてた？

Y：そうそう。

I：ご両親もずっと比羅夫に・・・

Y：そうだね、おばあちゃん、今年の7月に亡くなったけど、それまでは農家やって、施設入って入院してことんといっちゃった。

I：昔のこの辺の事もっと聞きたいんですけど。

Y：昔はねこのところ積み込みとかもしたんだ。あの、例えばジャガイモだとかビートだとかね。大きなね屋根のついた積んどく倉庫があってね、そこに貨物とかを置いておくすごいおっかい広場があって、そこで夏とか無料の、昔でいう活動写真、映画をやってくれたの。あっちからも降りてくる、山の方からも降りてくる、みんな集まって、そこで映写会。もっと昔はね、活動写真、弁士がしゃべってスライドみたいなのから始まったんだよ。浪曲師も来たよ。もうねえ、うちの母は浪曲が好きで好きでね、普段忙しい忙いって普段怒って仕事してるのにな、浪曲が来るって言ったら早くからご飯を食べて、その日ばかりはまあ大変に若返って、こんなに機嫌が良い母をみるのは何か月ぶりだってみんなで言ったりしてね。はりきってよろこんでねえ。昔なんてカセットあるわけでもないんだけどね、ちゃんと覚えて聞かせるんだわ、夜ね。母さんもう寝せてよ、なんてね。ここ栄えてたの。高校生なんか結構ここから乗ってね。

I：今全然いないですよ。

Y：そう、結局ね、今中学行っても高校いっても結局全部親が送り迎えしたりスクールバスが来たりするからね。だから、かわったねえ。

I：通学でつかわれてたほうが・・・

Y: そうだね。昔の話。そしてね昔こ学生と一緒に行商のおばさんのつてるわけよ、うちの母はねワラビを持って駅のおばさんに窓越しにこう渡すわけよ。小樽のさんかく市場とかで売るんじゃない。

— (中略) —

小学生中学生の時に母が忙しくなると家畜のえさを買ってられないから、私が20kgか30kgの家畜の飼料をね、しょっておいでって言うんだよね。何も恥ずかしくない私は私だって思ってもね、学生さんたちが凄顔してみるんだけどね、これで母さんが喜ぶならいいやと思ってね。

I: 何飼ってるんですか。今も飼ってるんですか。

Y: 今は飼ってない飼ってない。豚さんを買ったの。子供を産ませて買いに来る人が居て、たくさん飼ってたの。赤ちゃん用のやつも抱えてこいとかって言って。みんなに見られながら。母のためとはいえ、いやあしんどいなあってね。

I: この宿があつてよかったって思うことはありますか。

Y: いろんな人間模様が見えるのよ。降りたらほらここで、ね、(バーベキュー) 焼いたり、みんなが嬉しそうに楽しそうにしてるの見たり、おかえりなさーいなんていってたり、そういうの見たりすると、みんな喜んでる姿をみるのは良いもんだと思ってね。やっぱりここに出来てよかったよって思ってね、最初はほらここ建物だけで残ってたけど、だんだんだんだん人も増えてきたしね。あたしらは年行ってるから泊まりたいなあとか本格的に思う人はいないかもしれないけど、やっぱりいろんな人に声かけてね・・・どうしても限られるよね、交際範囲が。どうしても年齢の人ばかり

だからね。お客さん増えたみたいでいいね、とかいってるんだ。次の日おんなじ車で帰る人がいっぱいいるわけよ。そしてら乗り場こっちだよーとか、乗り方とかを教えてあげるわけよ。そうすると、泊まる人いたって言うのはいいことだねって。やっぱりリピーターだつて多いでしょ。

I: バーベキューとか一緒にやりたいなあとか思いますか。

Y: いやあ、思う思う！今度お客さんとして来たいねとか。またね、良いにおいするんだわ。おなかすいて帰って来るとちよつと予約しといてさ、食事だけして帰らない？なんてね、今度Mさんに話してみるか、焼けたところに帰って来るしよ、なんちゅつてね。

I: 電車に乗ってるときとかに・・・

Y: そう、みんな手ふるのよ。学生さんもみんな手ふるの。そういうの見てるとあぁいいなあってね。

I: こまることって・・・

Y: ないない。こっちの道どこ行くんですか？とかね、こっちの道近道だよ、そうなんだなんてね。

I: 宿に対して要望や希望はありますか。

Y: いまのままでいいんじゃない。いいよ、って常に言ってるんだもん。娘や孫に泊まりに来なつていうんだ。お友達とか招待したらいいかも知んない。私も泊まれるし！そして一緒に山菜とりに行つて、帰りに山菜持たせてさ。うちの家にはね、友達泊まったんだ。でもさプレハブに泊まらせると悪いしさ。春先にやる。夏は仕事が忙しくなるんだ草刈りとかね。

I: 比羅夫に欲しい施設とかありますか。

Y: 給油(ガソリン)スタンド。この辺にはないし樺山にもないし山田にもないの。それは不便ね。汽車があるつていっても、スタンドは欲しいよね。下手に新幹線なんて通つたらどうなるんだろうとか思うね。

I: Mさんとは宿について話したりとかつて言うのらないんですか。

Y: うーん、そうだね。でもね、みんな子供がかわいくてみんな誕生日知ってるよ。

I: ニセコとかつて買い物するところないんですか。

Y: あるよ。倶知安とここの間くらい。病院もあるしね。ニセコは点滴うつてくれるの。